

八代市子育てに関するアンケート調査の結果について

資料3

(1) 調査の目的

八代市では、「子ども・子育て支援法」に基づく「第1期八代市子ども・子育て支援事業計画」(平成27年度～令和元年度)、「第2期八代市子ども・子育て支援事業計画」(令和2年度～令和6年度)を策定し、子どもの支援や子育て支援に関する様々な取り組みをすすめてきました。

これらの計画の期間満了やこども大綱の策定に伴い、次期計画策定の基礎資料とするためアンケート調査を実施しました。

(2) 調査票の種類と回収状況

区分	調査票	調査対象	配布方法	回収方法	対象者数 有効回答数	有効回答率
調査1	調査票①	未就学児の保護者	郵送	郵送 Web 回答	2,000人 884人	44.2%
	調査票②	小学生の保護者	郵送	郵送 Web 回答	2,000人 881人	44.1%
調査2	調査票③	八代市立小学校に通う小学5年生	学校配布	学校回収 Web 回答	1,034人 670人	63.5%
	調査票④	上記小学5年生の保護者	学校配布	学校回収 Web 回答	1,034人 587人	55.6%
	調査票⑤	八代市立中学校に通う中学2年生	学校配布	学校回収 Web 回答	990人 683人	69.0%
	調査票⑥	上記中学2年生の保護者	学校配布	学校回収 Web 回答	990人 607人	61.3%
調査3	調査票⑦	18～39歳の若者	郵送	郵送 Web 回答	2,000人 421人	21.1%

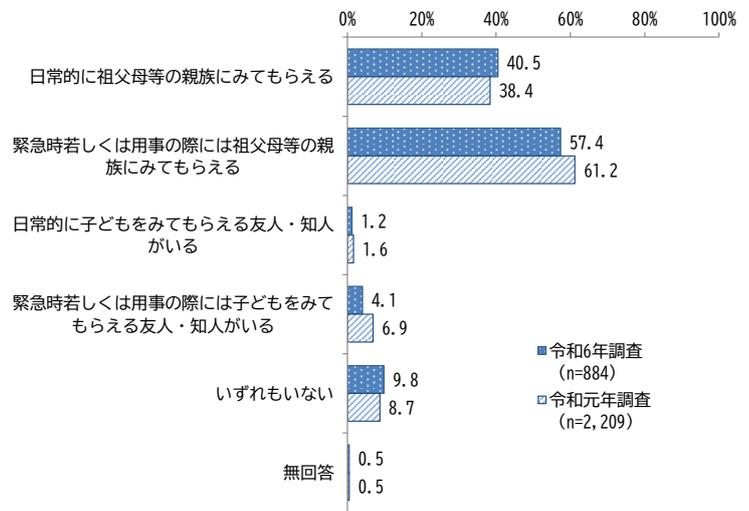
(3) 調査期間

令和6年4月8日から令和6年4月19日

(3) 子育てに関するアンケート調査

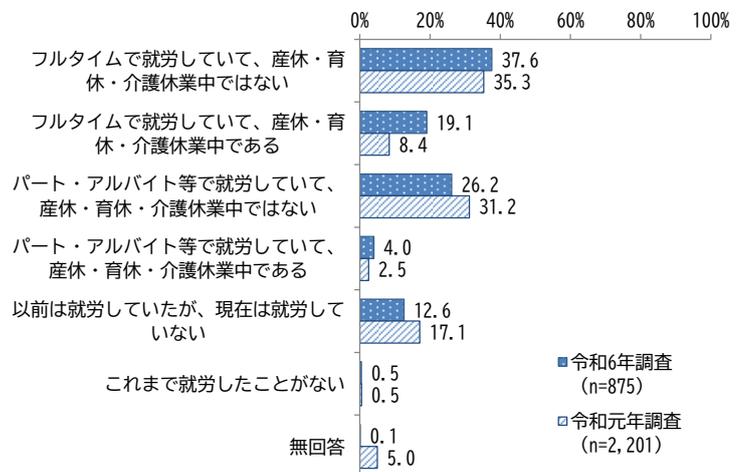
1) こどもの育ちをめぐる環境

- こども(就学前児童)をみてもらえる親族や友人・知人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(57.4%)の割合が最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(40.5%)となっている一方で、友人・知人に関しては「緊急時」(4.1%)、「日常的」(1.2%)という結果になっています。また、令和元年調査時と比較すると、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」を除き、子どもをみてもらえる親族や知人がいる人の割合が減少しています。

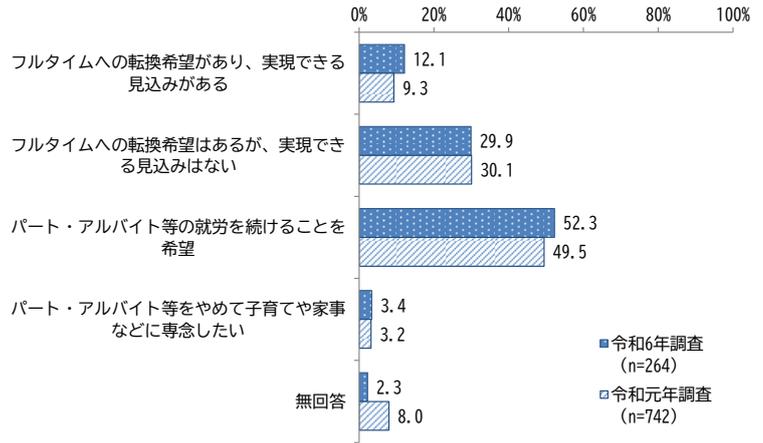


2) 保護者の就労状況

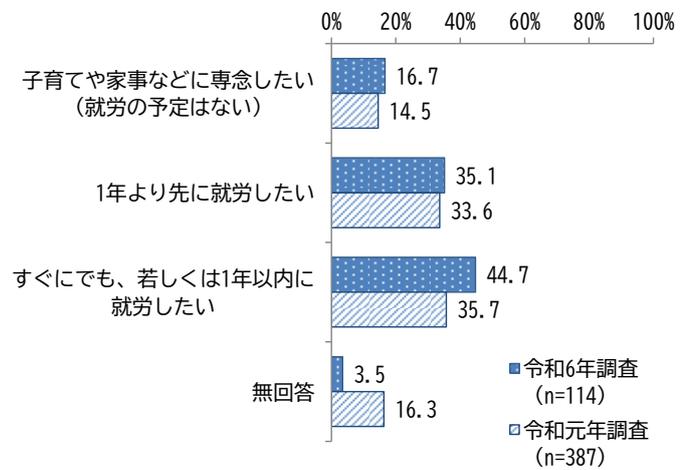
- 就学前児童の母親の就労状況についてみると、「フルタイム」の就労者が56.7%と最も多いものの、「パート・アルバイト等」の就労者が30.2%、「未就労(就労経験あり)」が12.6%となっており、就労形態が多様化していることがわかります。また、令和元年調査時と比べると、「フルタイム(産休・育休中)」の割合が10.7ポイント増加したこともあり、「フルタイム」就労者全体で13.0ポイント増加しています。



- パート・アルバイト等で就労している母親のうち、フルタイムへの転換希望がある人(「転換希望があり、実現できる見込みがある」+「転換希望はあるが、実現できる見込みはない」)の割合は、就学前児童:42.0%、小学生:44.0%です。

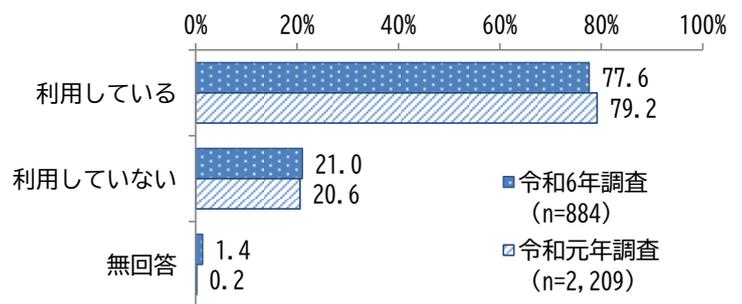


- 未就労の母親のうち、「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」という強い就労希望を持っている人の割合は、就学前児童:44.7%、小学生:46.3%です。

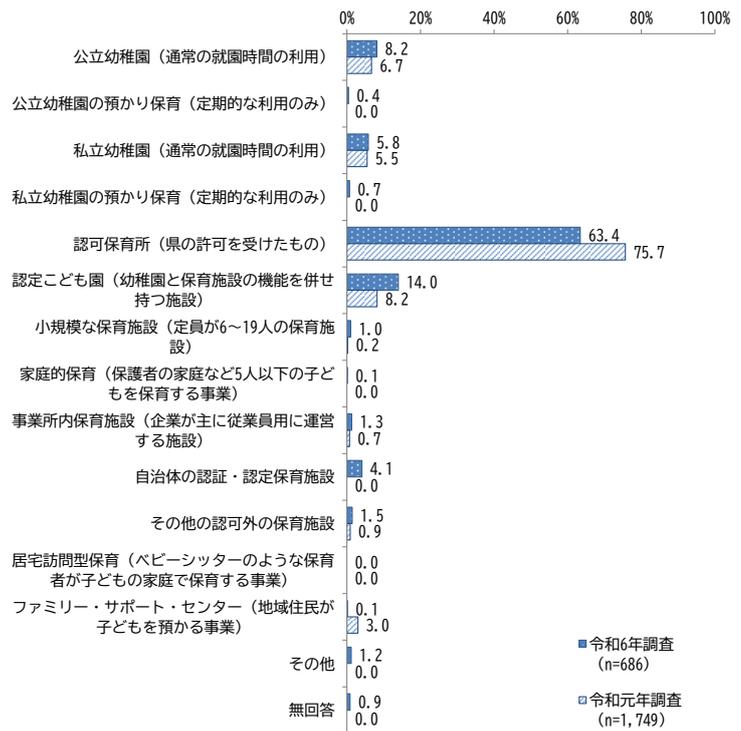


3) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

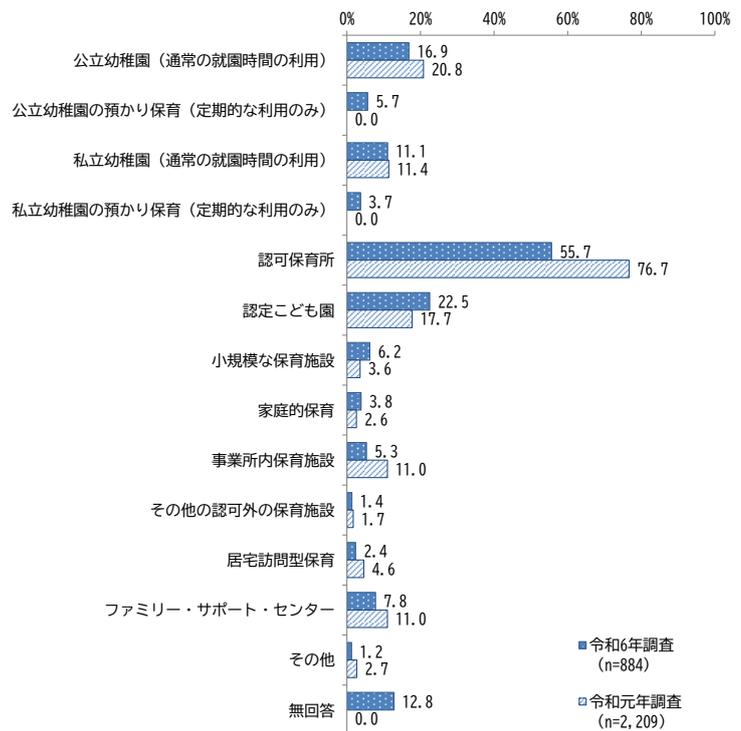
- 就学前児童の8割弱(77.6%)が、現在、平日の定期的な教育・保育事業を利用しています。



- 利用者が利用している事業の種類をみると「認可保育所」(63.4%)、「認定こども園」(14.0%)、「公立幼稚園(通常の就園時間の利用)」(8.2%)、「私立幼稚園(通常の就園時間の利用)」(5.8%)の順で利用割合が高くなっています。

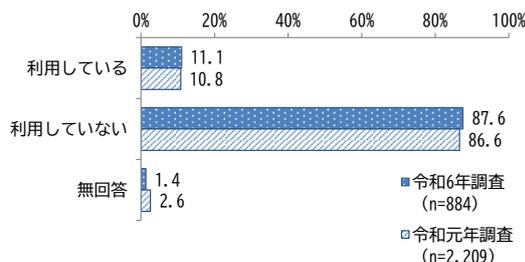


- 平日の定期的な教育・保育事業の今後の利用意向では、「認可保育所」(55.7%)の割合が最も高く、次いで「認定こども園」(22.5%)、「公立幼稚園(通常の就園時間の利用)」(16.9%)、「私立幼稚園(通常の就園時間の利用)」(11.1%)、「ファミリー・サポート・センター」(7.8%)となっています。

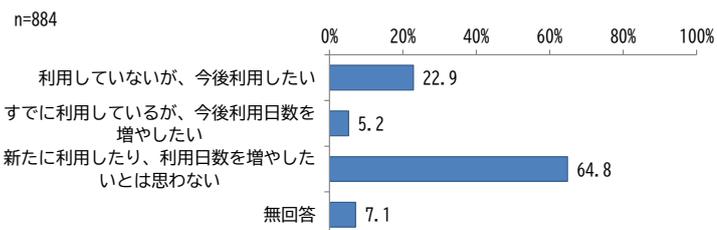


4) 地域子育て支援拠点事業の利用状況等

- 地域子育て支援拠点事業の利用状況では、「利用していない」の割合が 87.6%であるのに対して、「利用している」の割合が 11.1%となっています。

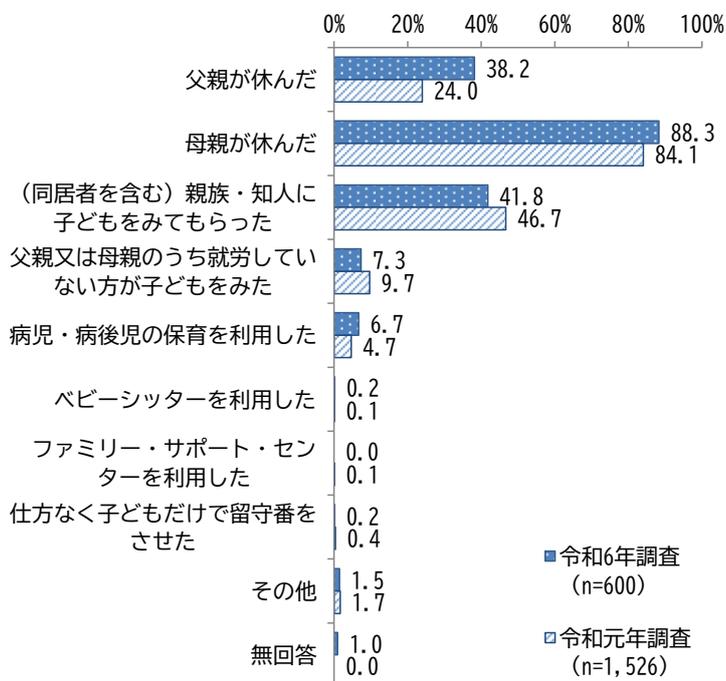


- 地域子育て支援拠点事業の利用意向では、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」(64.8%)の割合と 6 割以上で最も高くなっていますが、利用希望者も 28.1%を占めています(今後利用したい:22.9%+利用日数を増やしたい:5.2%)。



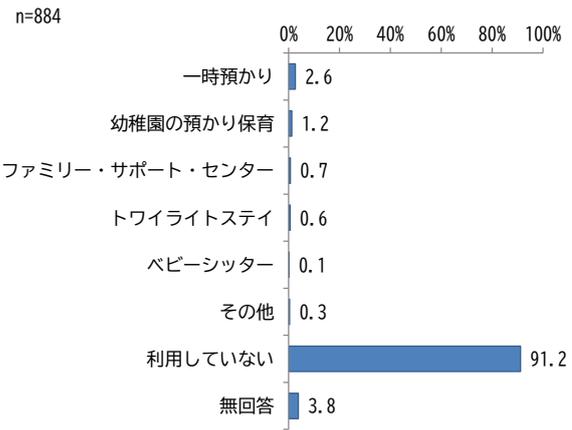
5) 平日の定期的な教育・保育事業利用者の病気の際の対応

- この1年間に子どもの病気等のために定期的に教育・保育事業を利用しなかった場合の対処方法では「母親が休んだ」(88.3%)、「親族・知人に子どもをみてもらった」(41.8%)の順で割合が高く、「病児・病後児の保育を利用した」は 6.7%となっています。

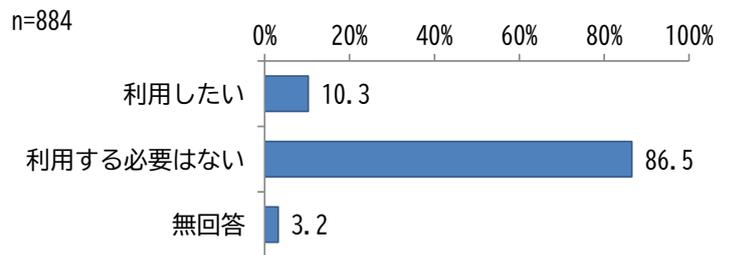


6) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

- この1年間の不定期の教育・保育事業の利用状況については、「利用していない」(91.2%)が9割を超えています。

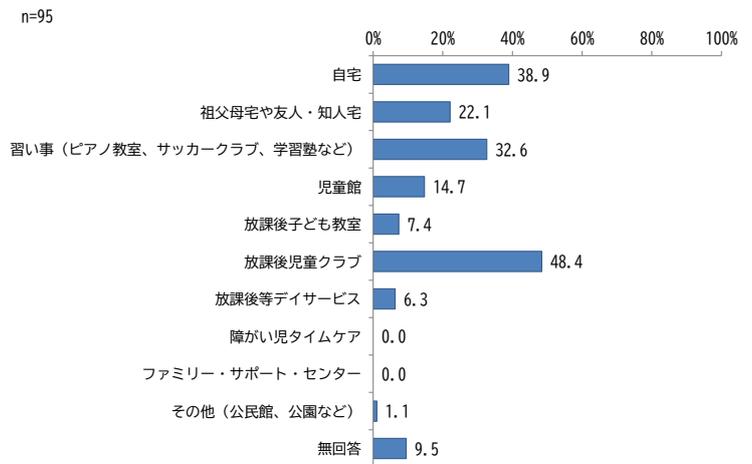


- 泊まりがけで子どもを家族以外に預ける短期入所生活援助事業(ショートステイ)の利用意向では、「利用する必要はない」(86.5%)の割合が8割以上と高く、「利用したい」(10.3%)の割合は1割強となっています。

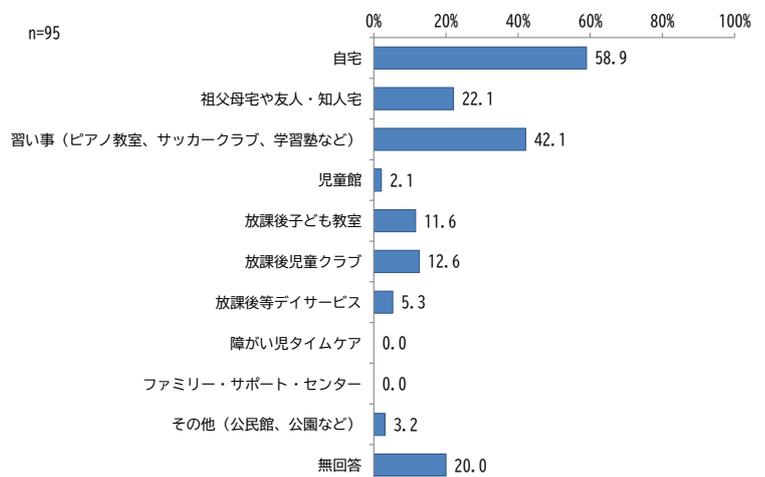


7) 放課後の過ごし方

- 5歳児の保護者に、小学校就学後の放課後の過ごし方について、低学年時(小学1~3年生)の希望を尋ねたところ、放課後児童クラブの希望割合は、48.4%と最も高くなっています。

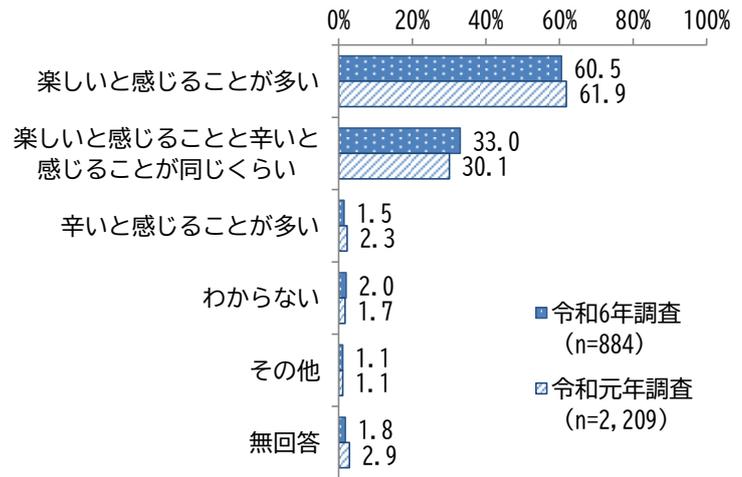


- 5歳児の保護者に、小学校就学後の放課後の過ごし方について、高学年時(小学4~6年生)の希望を尋ねたところ、放課後児童クラブの希望割合は、12.6%となっています。最も割合が高いのは、「自宅」で、58.9%となっています。

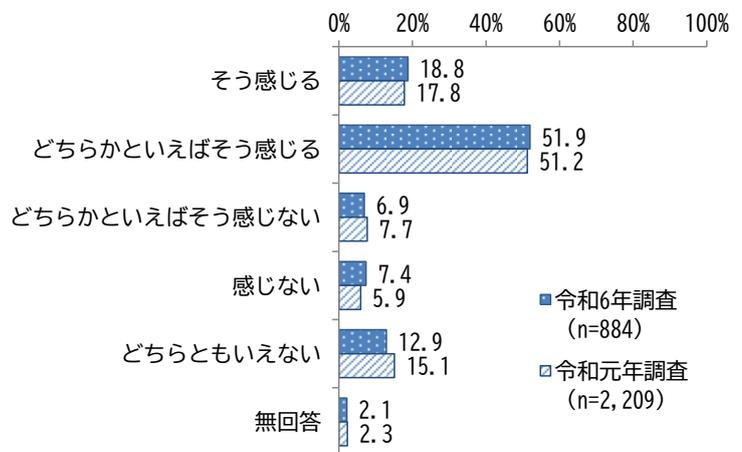


8) 子ども・子育て支援全般

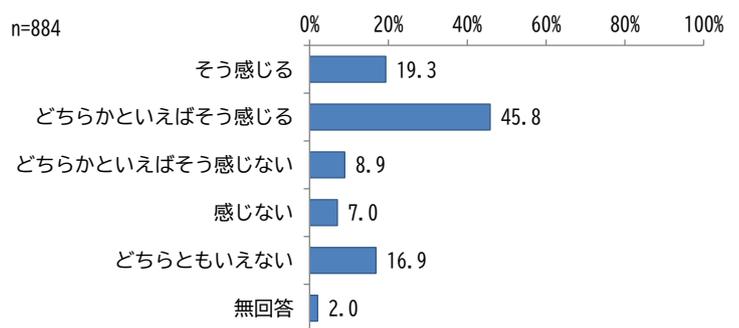
- 子育てについてどのように感じているか尋ねたところ、就学前児童保護者では、「楽しいと感じることが多い」(60.5%)、「楽しいと感じることが多い」と感じることも辛いと感じることが同じくらい(33.0%)、「辛いと感じることが多い」(1.5%)となっています。



- 八代市が子育てしやすいまちだと思いか就学前児童保護者に評価してもらったところ、評価する人(「そう感じる」+「どちらかといえばそう感じる」)が70.7%、評価しない人(「どちらかといえば感じない」+「感じない」)が14.3%と評価する人の割合が高くなっています。

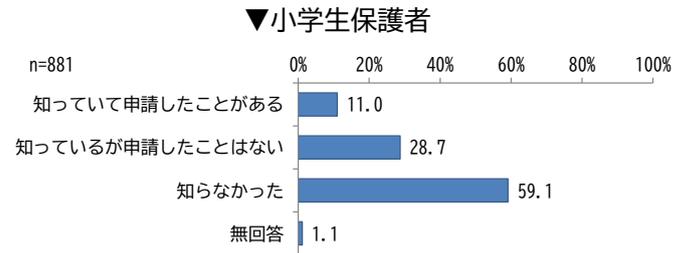
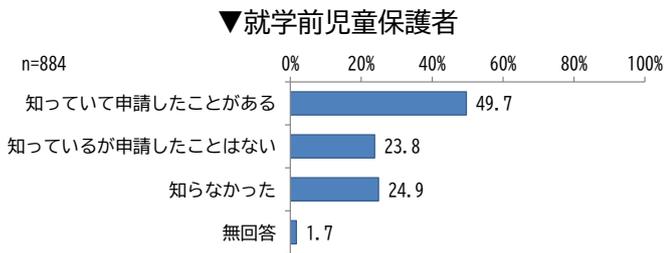


- 八代市が妊娠・出産期における保健サービスが整っているか就学前児童保護者に評価してもらったところ、評価する人(「そう感じる」+「どちらかといえばそう感じる」)が65.1%、評価しない人(「どちらかといえば感じない」+「感じない」)が15.9%とこちらも評価する人の割合が高くなっています。

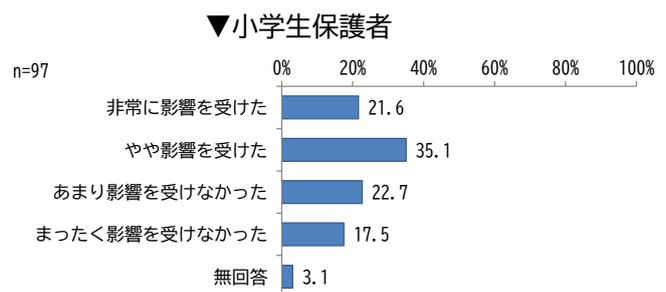
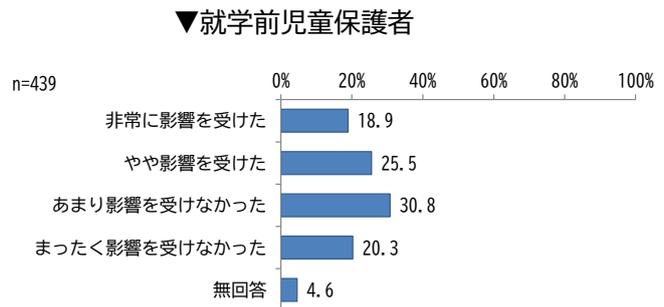


9) 出産祝金

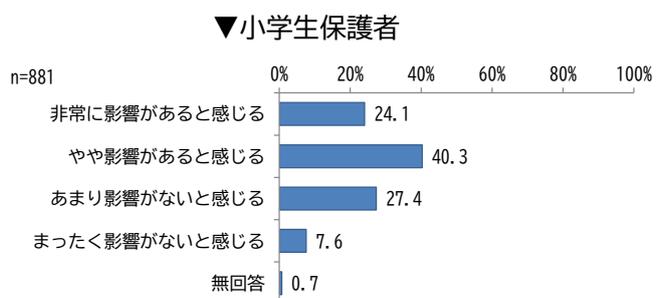
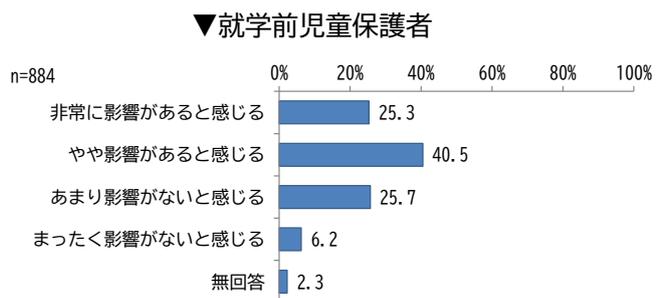
- 出産祝金について尋ねたところ、知っている人(「知っている申請したことがある」+「知っているが申請したことはない」)の割合は就学前児童保護者:73.5%、小学生保護者:39.7%となっています。



- 出産祝金について、「知っている申請したことがある」人に、子どもを産み育てるきっかけとしての影響を尋ねたところ、影響を受けた人(「非常に影響を受けた」+「やや影響を受けた」)が就学前児童保護者:44.4%、小学生保護者:56.7%、影響を受けなかった人(「あまり影響を受けなかった」+「まったく影響を受けなかった」)が就学前児童保護者:51.1%、小学生保護者:40.2%と、小学生保護者において影響を受けた人の割合が高くなっています。

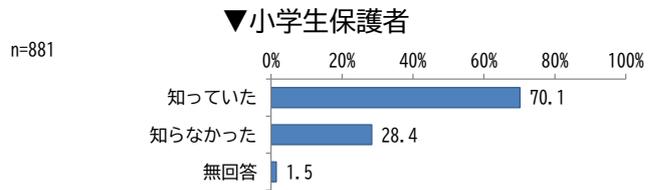
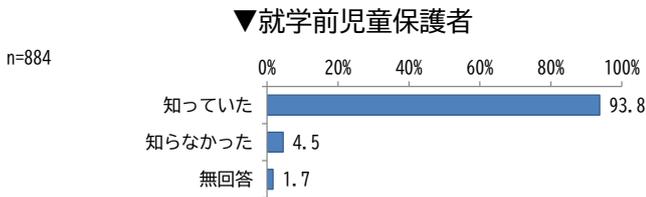


- 出産祝金について、全ての人に、今後の子どもを産み育てるきっかけとしての影響を尋ねたところ、影響があると感じる人(「非常に影響があると感じる」+「やや影響があると感じる」)が就学前児童保護者:65.8%、小学生保護者:64.4%、影響がないと感じる人(「あまり影響がないと感じる」+「まったく影響がないと感じる」)が就学前児童保護者:31.9%、小学生保護者:35.0%と、影響があると感じる人の割合が高くなっています。

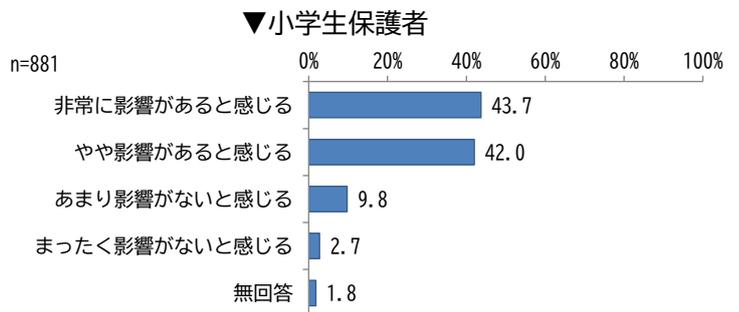
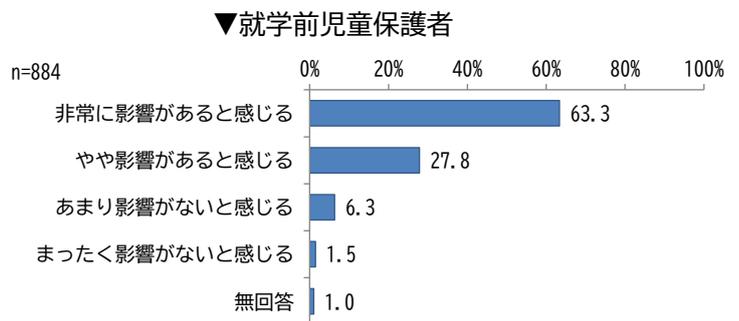


10) 保育料無償化

- 0～2 歳児の保育料無償化について尋ねたところ、知っていた人の割合は就学前児童保護者：93.8%、小学生保護者：70.1%となっています。

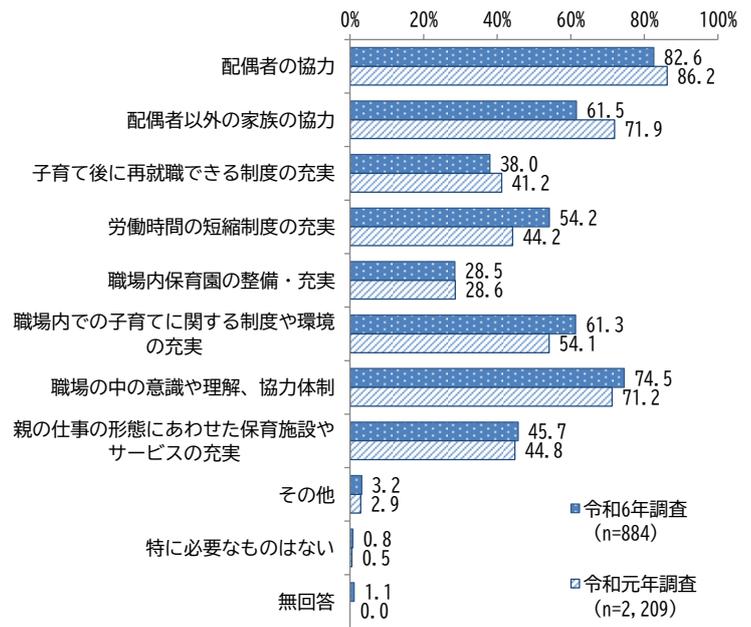


- 0～2 歳児の保育料無償化について、全ての人に、今後の子どもを産み育てるきっかけとしての影響を尋ねたところ、影響があると感じる人（「非常に影響があると感じる」+「やや影響があると感じる」）が就学前児童保護者：91.1%、小学生保護者：85.7%、影響がないと感じる人（「あまり影響がないと感じる」+「まったく影響がないと感じる」）が就学前児童保護者：7.8%、小学生保護者：12.5%と、影響があると感じる人の割合が高くなっています。



11) 仕事と子育ての両立に必要なもの

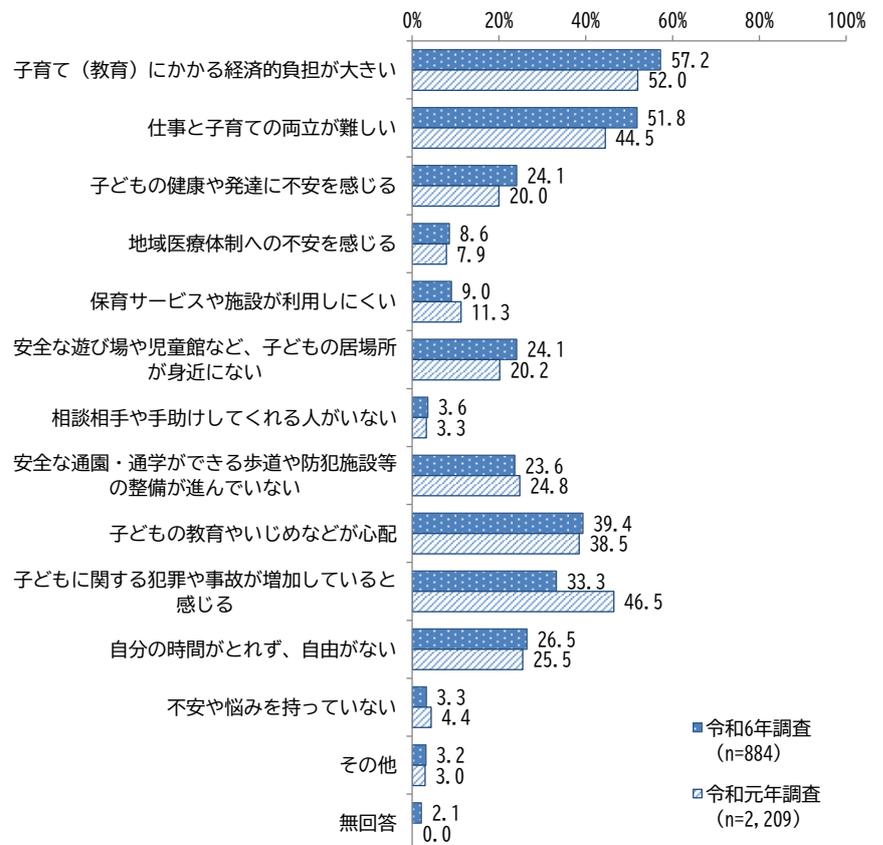
- 就学前児童保護者において、仕事と子育てを両立させるために必要なものについて、「配偶者の協力」の割合が 82.6%と最も高く、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」の割合が74.5%、「配偶者以外の家族の協力」の割合が 61.5%となっています。令和元年調査時と比べると、「配偶者の協力」「配偶者以外の家族の協力」といった項目の割合が減少しているのに対して、「労働時間の短縮制度の充実」「職場内での子育てに関する制度や環境の充実」「職場の中の意識や理解、協力体制」といった項目の割合が増加しています。



12) 子育てに関する不安や悩み

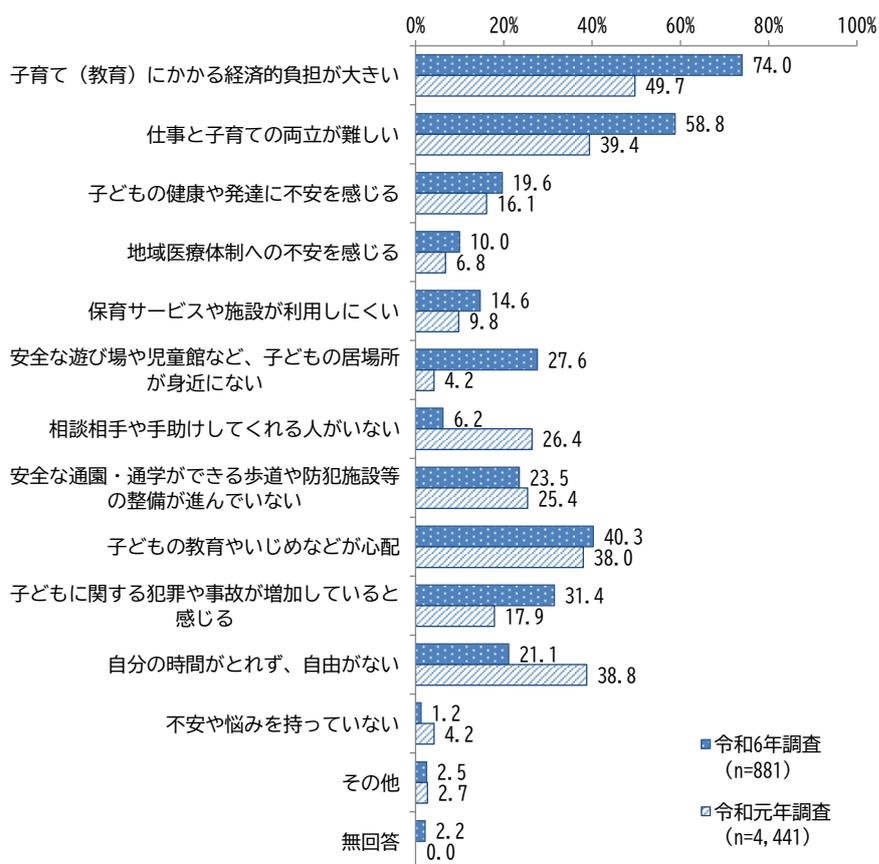
- 子育てに関する不安や悩みについて、就学前児童保護者では「子育て(教育)にかかる経済的負担が大きい」(57.2%)「仕事と子育ての両立が難しい」(51.8%)「子どもの教育やいじめなどが心配」(39.4%)の順となっています。令和元年調査時と比べると、「子どもに関する犯罪や事故が増加していると感じる」の割合が 13.2 ポイントと大きく減少したのに対して、「仕事と子育ての両立が難しい」の割合は 7.3 ポイント、「子育て(教育)にかかる経済的負担が大きい」の割合は 5.2 ポイント増加しています。

▼就学前児童保護者



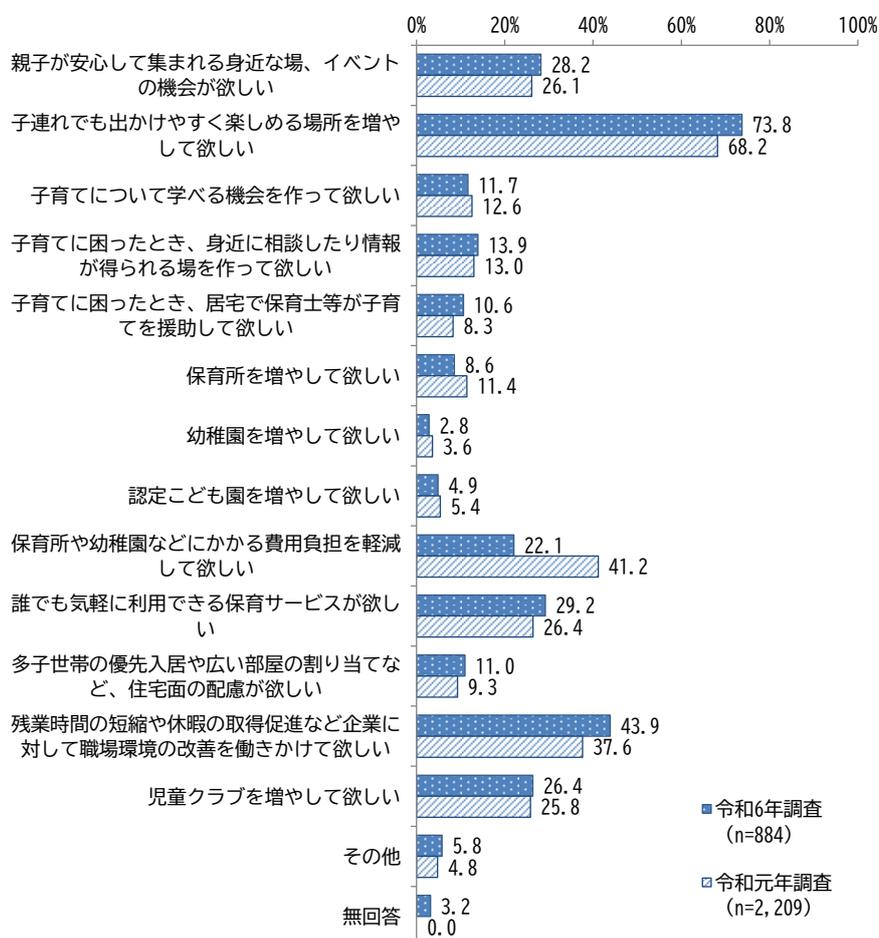
▼小学生保護者

- 小学生保護者では「子育て(教育)にかかる経済的負担が大きい」(74.0%)「仕事と子育ての両立が難しい」(58.8%)「子どもの教育やいじめなどが心配」(40.3%)の順となっています。令和元年調査時と比べると、「子育て(教育)にかかる経済的負担が大きい」の割合が 24.3 ポイント、「安全な遊び場や児童館など、子どもの居場所が身近でない」の割合が 23.4 ポイント、「仕事と子育ての両立が難しい」の割合が 19.4 ポイントと大幅に増加しています。



13) 必要だと思う子育て支援策

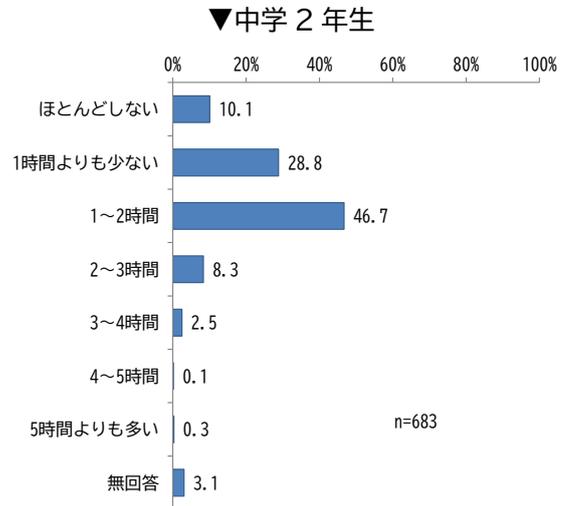
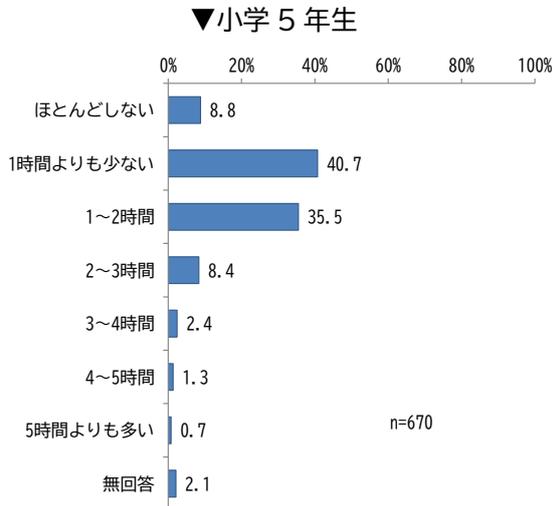
- 就学前児童保護者が必要だと思う子育て支援策について、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい」の割合が73.8%と最も高く、次いで「残業時間の短縮や休暇の取得促進など企業に対して職場環境の改善を働きかけて欲しい」の割合が43.9%、「親子が安心して集まれる身近な場、イベントの機会が欲しい」の割合が28.2%となっています。「保育所や幼稚園などにかかる費用負担を軽減して欲しい」の割合が19.1ポイント減少したのに対して、「残業時間の短縮や休暇の取得促進など企業に対して職場環境の改善を働きかけて欲しい」の割合は6.3ポイント、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい」の割合は5.6ポイント増加しています。



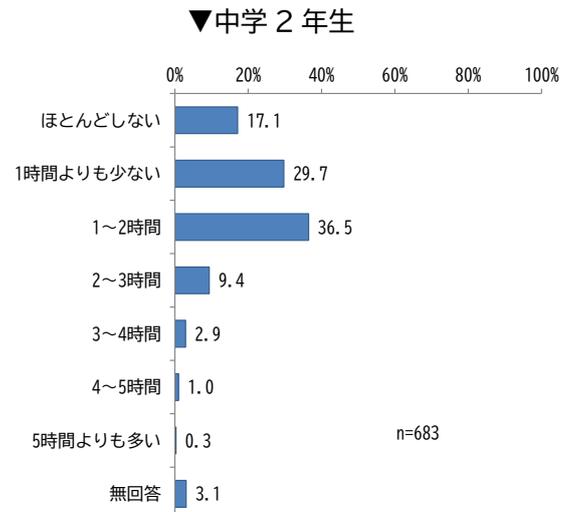
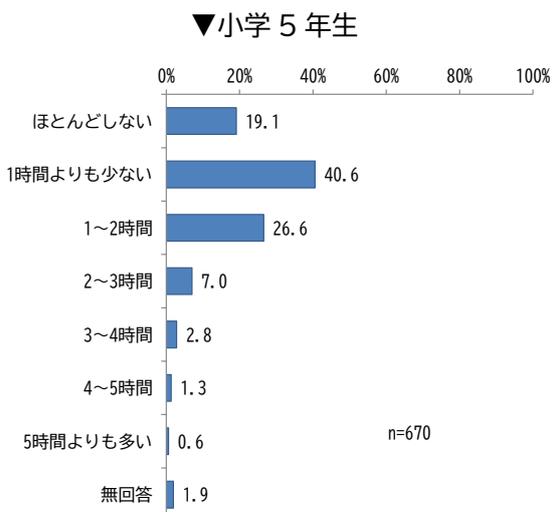
(4) 子どもの生活実態調査【小学 5 年生・中学 2 年生】

1) 子どもたちの学び

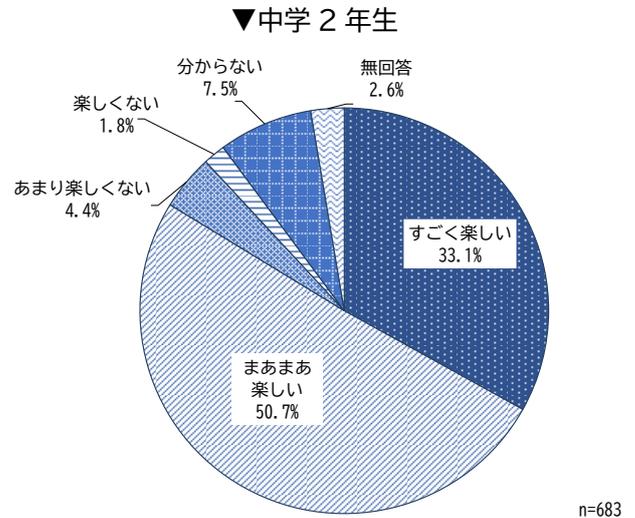
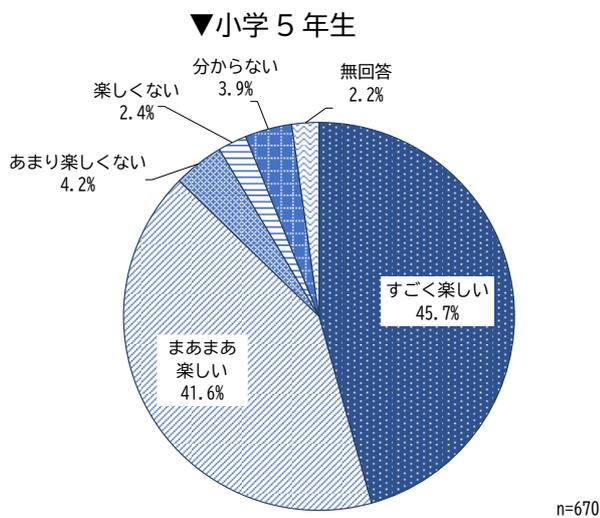
- 平日の勉強時間について、小学 5 年生では「1 時間よりも少ない」(40.7%)、「1～2 時間」(35.5%)、「ほとんどしない」(8.8%)の順であるのに対して、中学 2 年生では「1～2 時間」(46.7%)、「1 時間よりも少ない」(28.8%)、「ほとんどしない」(10.1%)の順となっています。



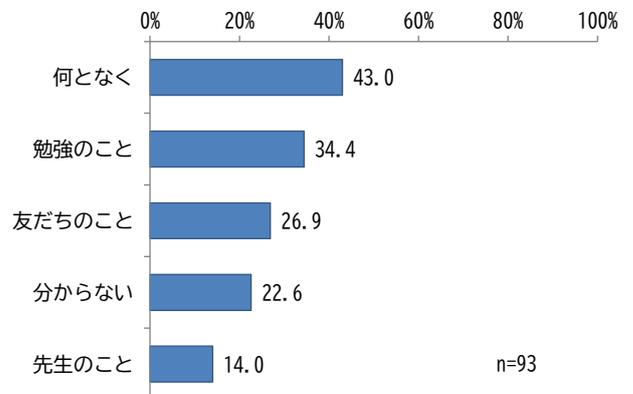
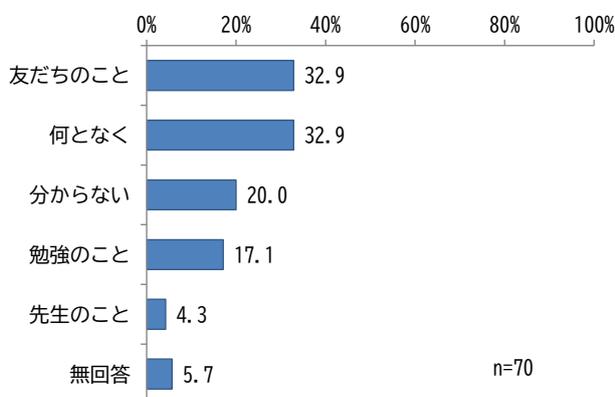
- 休日の勉強時間について、小学 5 年生では「1 時間よりも少ない」(40.6%)、「1～2 時間」(26.6%)、「ほとんどしない」(19.1%)の順であるのに対して、中学 2 年生では「1～2 時間」(36.5%)、「1 時間よりも少ない」(29.7%)、「ほとんどしない」(17.1%)の順となり、平日よりも「ほとんどしない」の割合が増加しています。



- 学校の楽しさについて、楽しいと感じる人(「すごく楽しい」+「まあまあ楽しい」)の割合は小学 5 年生: 87.3%、中学 2 年生:83.8%、楽しくないと感じる人(「あまり楽しくない」+「楽しくない」)の割合は小学 5 年生:6.6%、中学 2 年生:6.2%となっています。



- 楽しくない原因について、小学 5 年生では「友だちのこと」「何となく」(32.9%)、「分からない」(20.0%)、「勉強のこと」(17.1%)の順であるのに対して、中学 2 年生では「何となく」(43.0%)、「勉強のこと」(34.4%)、「友だちのこと」(26.9%)の順となっています。

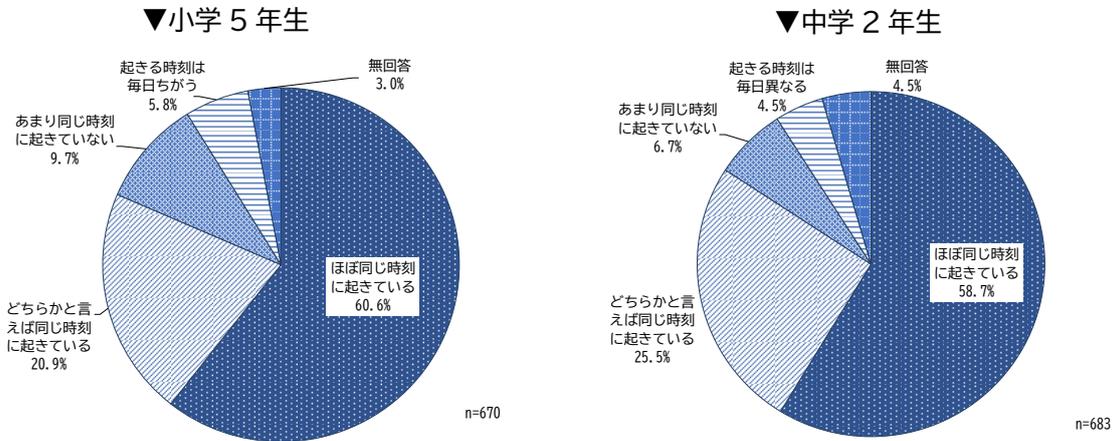


2)授業以外の活動

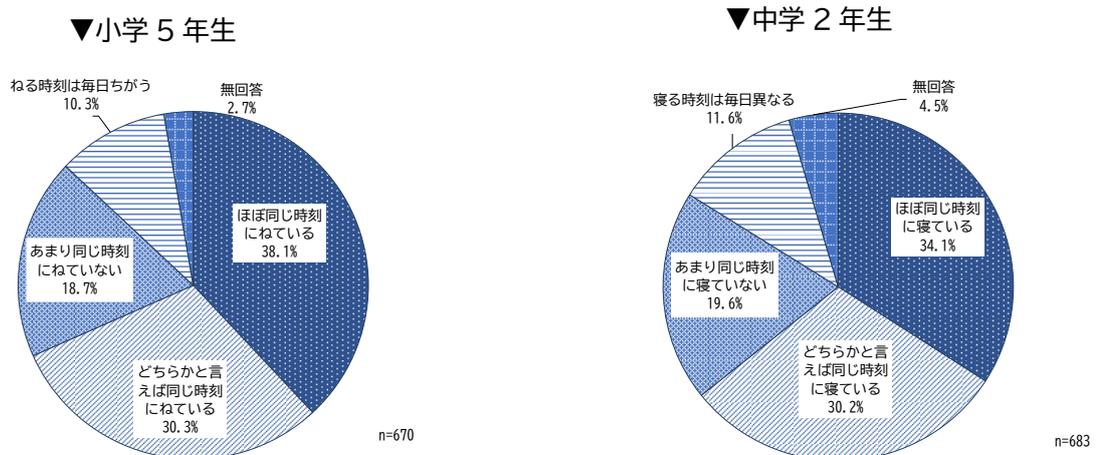
- 地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動への参加状況について、いずれの年代も参加率が過半数を超えており、小学 5 年生:56.6%、中学 2 年生:71.9%となっています。参加していない理由について、いずれの年代も「特に理由はない」(小学 5 年生:39.7%、中学 2 年生:40.9%)が最も割合が高く、それに次ぐ理由として、「加入したいスポーツクラブ等がないから」(小学 5 年生:26.8%、中学 2 年生:35.7%)となっています。

3) 起床時刻

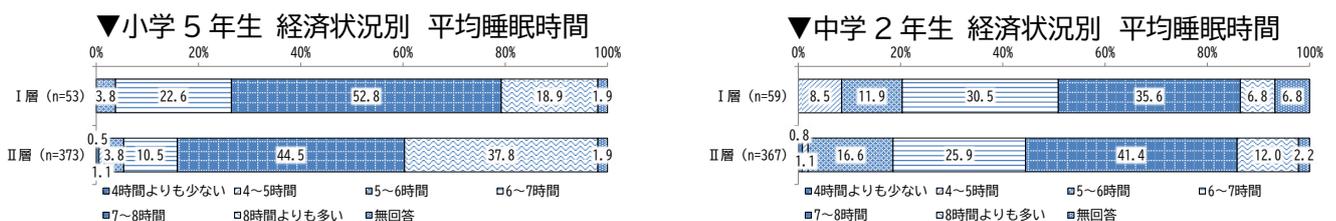
- 平日の起床時刻について、「ほぼ同じ時刻に起きている」の割合は小中学生ともに 6 割前後である一方(小学 5 年生:60.6%、中学 2 年生:58.7%)、時刻が安定しない「あまり同じ時刻に起きていない」(小学 5 年生:9.7%、中学 2 年生:6.7%)「起きる時刻は毎日ちがう」(小学 5 年生:5.8%、中学 2 年生:4.5%)については、小学 5 年生の割合が高くなっています。



- 平日の就寝時刻について、小中学生の 3 割前後が安定しておらず、「あまり同じ時刻にねていない」(小学 5 年生:18.7%、中学 2 年生:19.6%)「ねる時刻は毎日ちがう」(小学 5 年生:10.3%、中学 2 年生:11.6%)となっています。



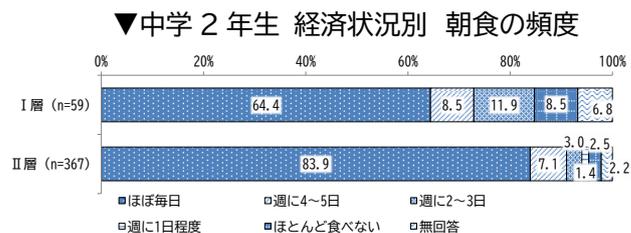
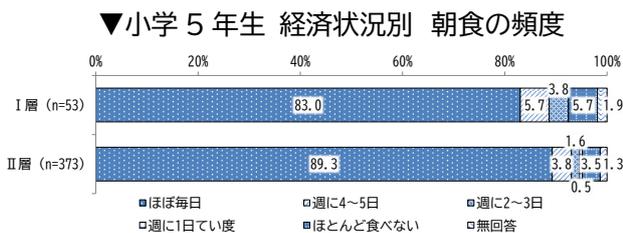
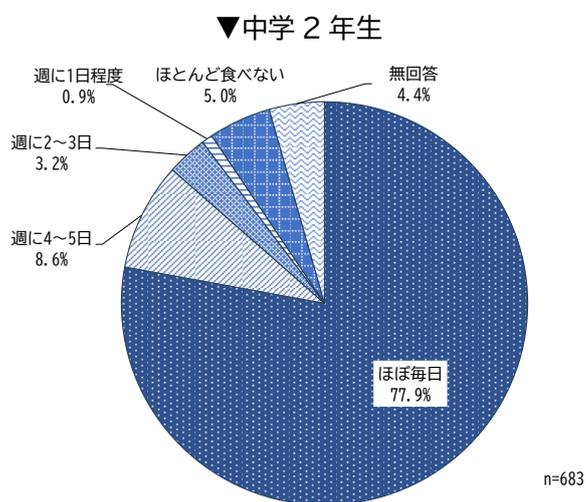
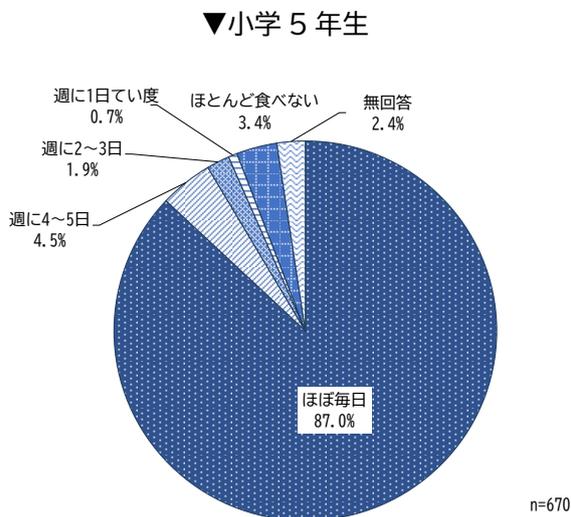
- 平日の平均睡眠時間について経済状況別¹にみると、小学生では I 層は II 層と比べて 7 時間以上の割合が低くなっています。中学生では大きな差はみられないものの、I 層の方がより睡眠時間が短い選択肢を選ぶ傾向にあります。



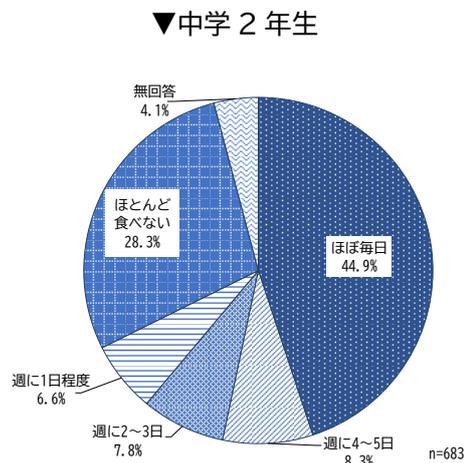
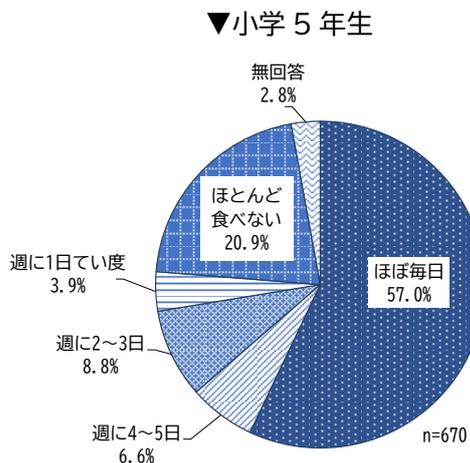
¹ 本調査における保護者の世帯収入に関する回答と厚生労働省が公表している算出方法に基づいて相対的貧困世帯を定義し、I 層(貧困率を下回る層に属する回答者)、II 層(それ以外の回答者)と区分し、集計を行っています。

4) 朝食の頻度

- 朝食の頻度について、「毎日食べる」割合は年代が上がるにつれて減少しています(小学5年生:87.0%、中学2年生:77.9%)。同時に「ほとんど食べない」の割合は、年代が上がるにつれて増加しています(小学5年生:3.4%、中学2年生:5.0%)。また、経済状況別にみると、小学生・中学生ともにI層がII層と比べて「ほぼ毎日」の割合が低くなっています。

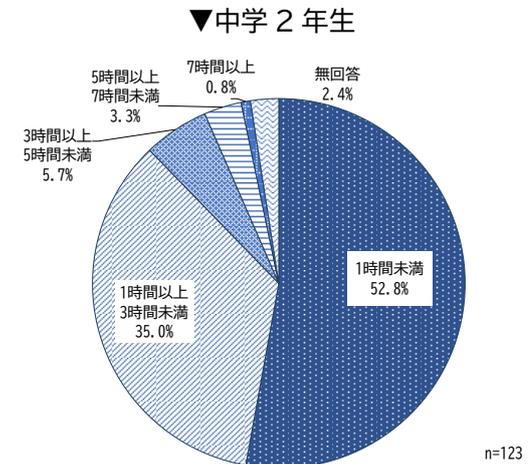
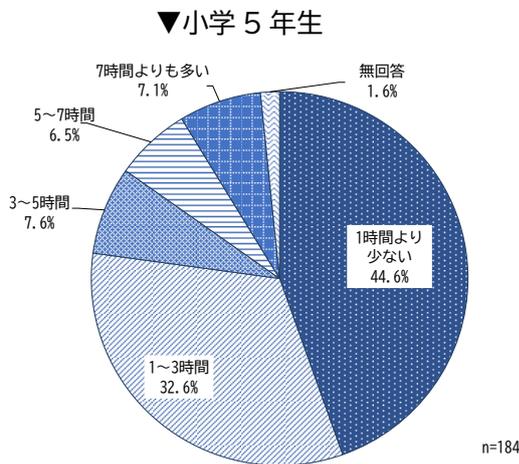


- 保護者と朝食を食べる頻度について、「毎日食べる」割合は、年代が上がるにつれて減少しています(小学5年生:57.0%、中学2年生:44.9%)。「ほとんど食べない」の割合はそれぞれ2割以上となっており、年代が上がるにつれて増加しています(小学5年生:20.9%、中学2年生:28.3%)。保護者と夕食を食べる頻度は朝食を食べる頻度よりも多く、「毎日食べる」割合は小学5年生:83.0%、中学2年生:75.8%となっています。

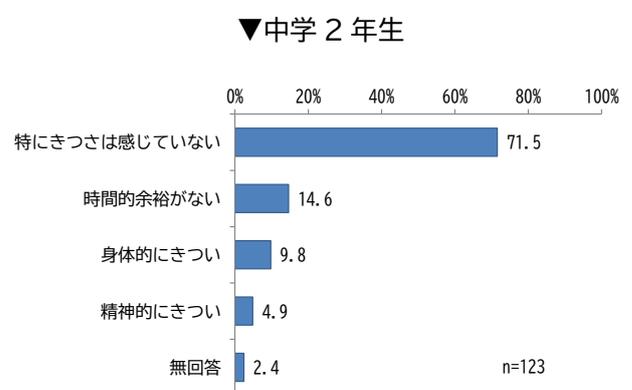
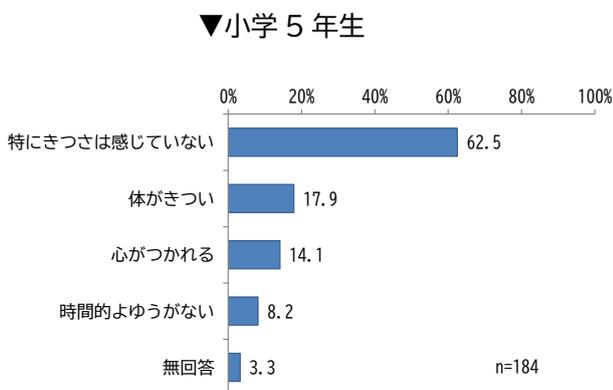


5) ヤングケアラー

- お世話をしている人の有無について「いる」の割合は、小学5年生:27.5%、中学2年生:18.0%となっています。また、「ヤングケアラー」という言葉の認知度について、「聞いたことがあり、内容も知っている」割合は、小学5年生:5.4%、中学2年生:10.4%でした。さらに「聞いたことはあるがよく知らない」を合わせた「聞いたことがある」割合は、小学5年生:16.9%、中学2年生:26.9%であり、いずれも年代が上がるにつれて、認知度も上昇しています。なお、「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」人で、お世話をしている人の有無について「いる」の割合は、小学5年生:1.0%、中学2年生:0.4%でした。
- 平日に行うお世話の時間の長さを尋ねたところ、小中学生ともに「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっています(小学5年生:45.7%、中学2年生:38.2%)。その時間の長さに関しては、小中学生ともに「1時間未満」の割合が最も高くなっています(小学5年生:44.6%、中学2年生:52.8%)。



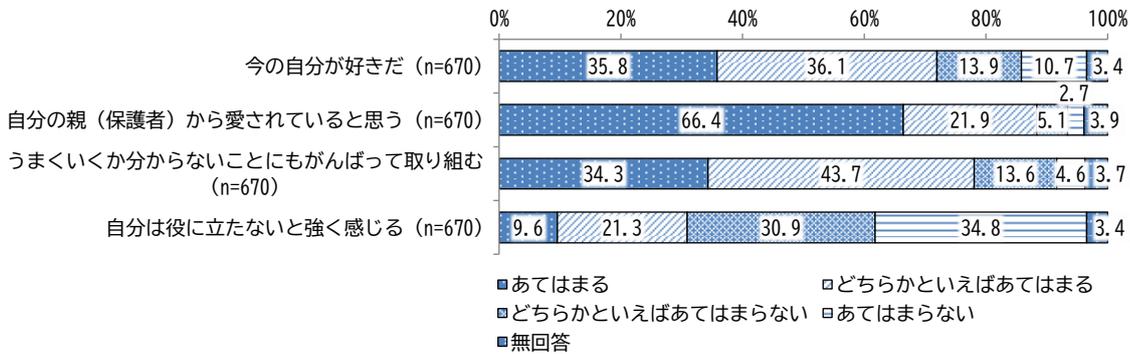
- お世話することにより感じるきつきについて、小中学生ともに「特にきつきは感じていない」の割合が最も高くなっています(小学5年生:62.5%、中学2年生:71.5%)。一方で、きつきを感じる内容については、小学5年生においては「体がきつい」(17.9%)の割合が最も高く、中学2年生においては「時間的余裕がない」(14.6%)の割合が最も高くなっています。



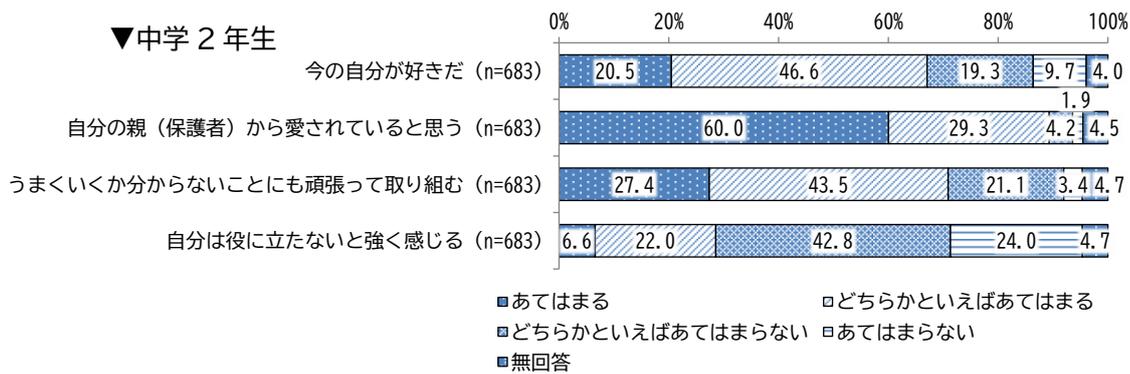
6) 自分自身の気持ち

- 「今の自分が好きだ」と思う割合について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」をあわせた「あてはまる」の割合は、小中学生ともに 7 割前後となっています(小学 5 年生:71.9%、中学 2 年生:67.1%)。

▼小学 5 年生

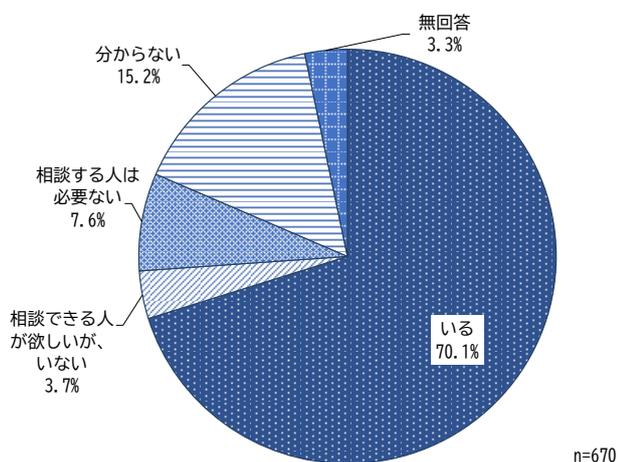


▼中学 2 年生

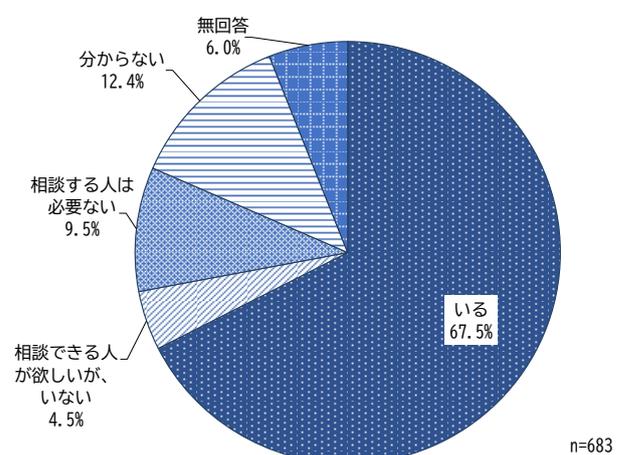


- 悩みなどを相談できる人について、「いる」の割合は、小中学生ともに 7 割前後となっています(小学 5 年生:70.1%、中学 2 年生:67.5%)。一方、「相談できる人が欲しいが、いない」とする割合については、小学 5 年生:3.7%、中学 2 年生:4.5%となりました。

▼小学 5 年生



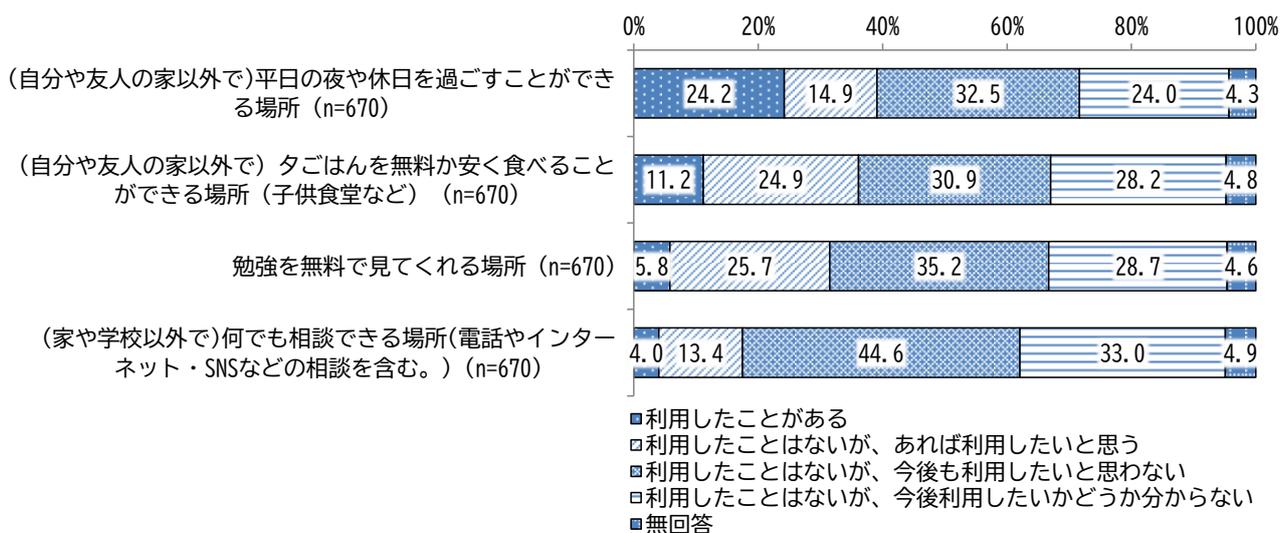
▼中学 2 年生



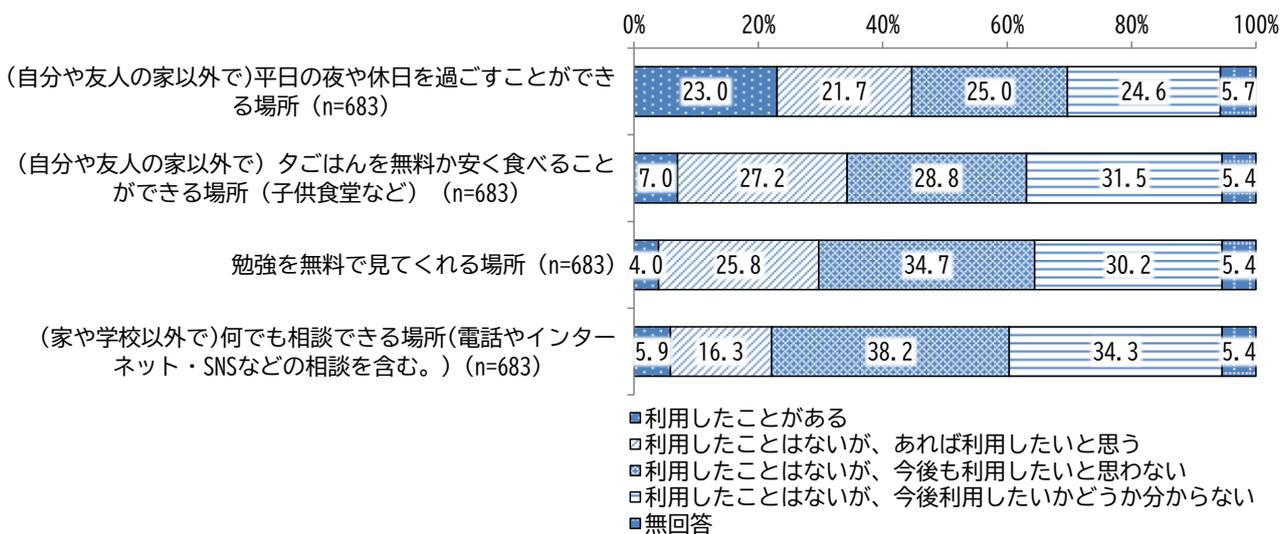
7) 居場所の利用

- 居場所等の利用状況について、『平日の夜や休日を過ごすことができる場所』を「利用したことがある」割合は、小学 5 年生:24.2%、中学 2 年生:23.0%であり、その他の居場所よりも利用率が高くなっています。「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」の割合については、小学 5 年生については「勉強を無料で見てくれる場所」の割合が最も高く(小学 5 年生:25.7%)、中学 2 年生については「夕ご飯を無料か安く食べることができる場所」の割合が最も高く(中学 2 年生:27.2%)なっています。

▼小学 5 年生



▼中学 2 年生

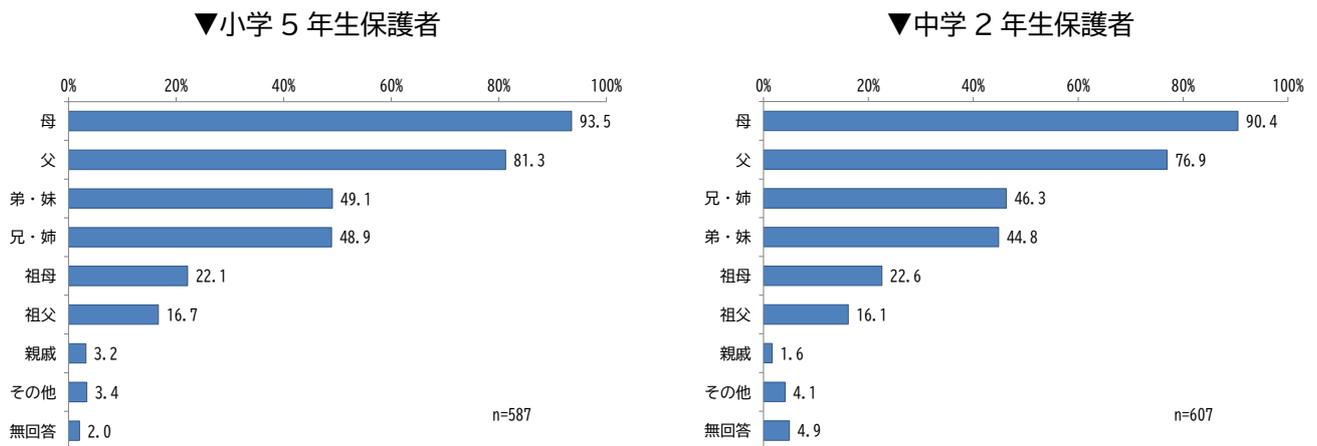


- 上記のような居場所を利用したことによる変化について、「特に変化はない」(小学 5 年生:33.0%、中学 2 年生:44.6%)を除くと、小学 5 年生では「生活の中で楽しみなことが増えた」の割合が最も高く(31.6%)、中学 2 年生では「友だちが増えた」の割合が最も高くなっています(25.8%)。

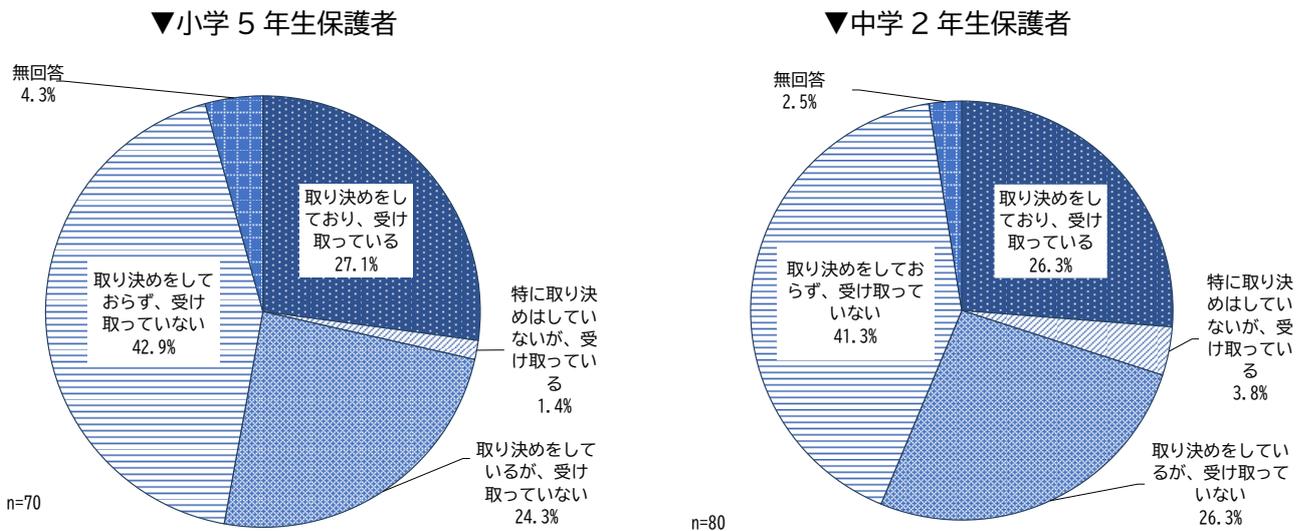
(5) 子どもの生活実態調査【小学 5 年生・中学 2 年生保護者】

1) 家族構成等

- 家族構成について、小中学生世帯ともに「母親」が 9 割以上(小学 5 年生保護者:93.5%、中学 2 年生保護者:90.4%)、「父親」が 8 割前後(小学 5 年生保護者:81.3%、中学 2 年生保護者:76.9%)と大半を占めています。また「祖母」と同居する世帯の割合はいずれも 2 割前後(小学 5 年生保護者:22.1%、中学 2 年生保護者:22.6%)で、「祖父」と同居する世帯の割合は 1 割以上でした(小学 5 年生保護者:16.7%、中学 2 年生保護者:16.1%)。

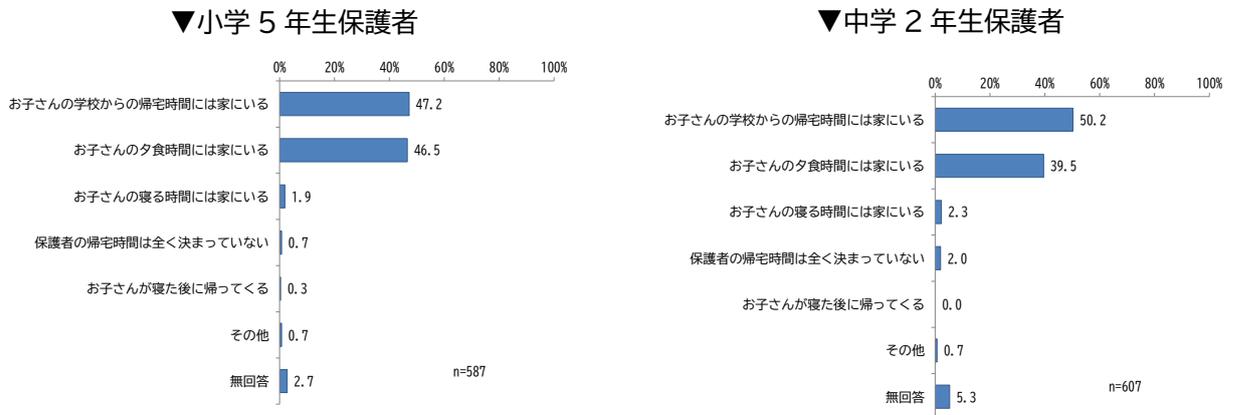


- 親の婚姻状況について、「結婚している」割合は、小学 5 年生保護者:84.2%、中学 2 年生保護者:79.1%となっています。離婚している場合において、「受け取っていない」(「養育費の取り決めをしているが、受け取っていない」+「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」)の割合は、小学 5 年生保護者:67.2 %、中学 2 年生保護者:67.6 %でした。

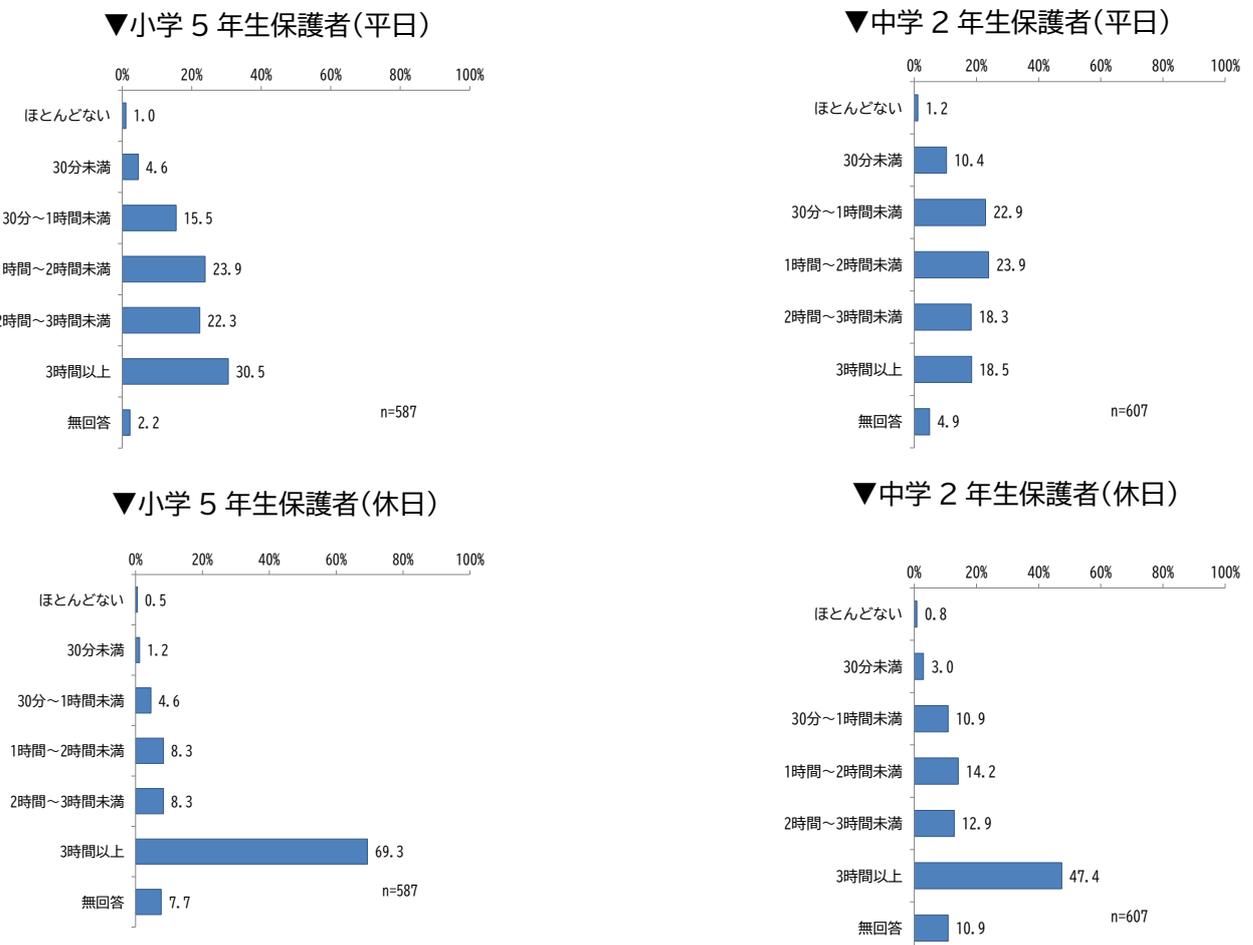


2) 子どもとの時間

- 保護者が家にいる時間について、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」割合が小中学生世帯ともに最も高くなっています(小学5年生保護者:47.2%、中学2年生保護者:50.2%)。

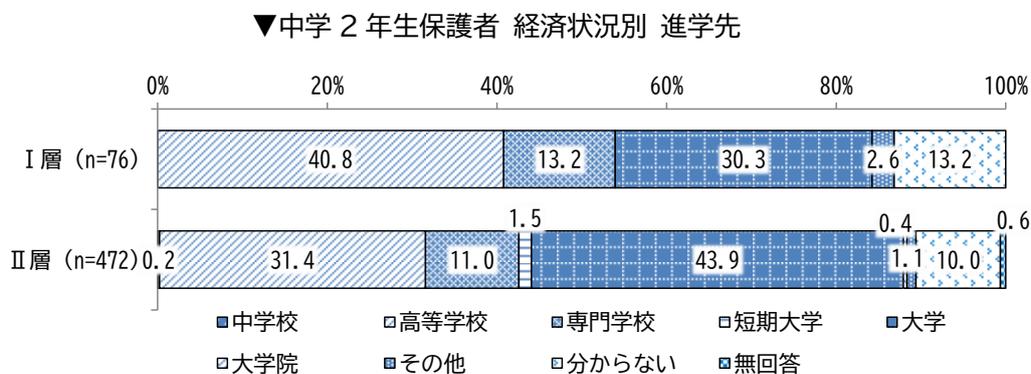
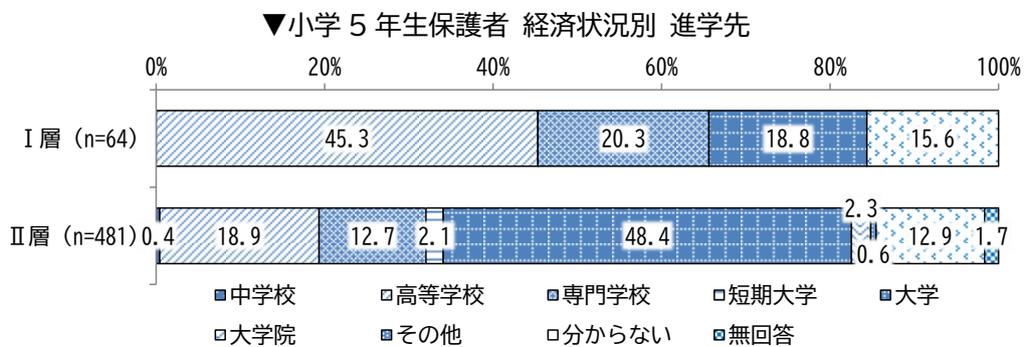
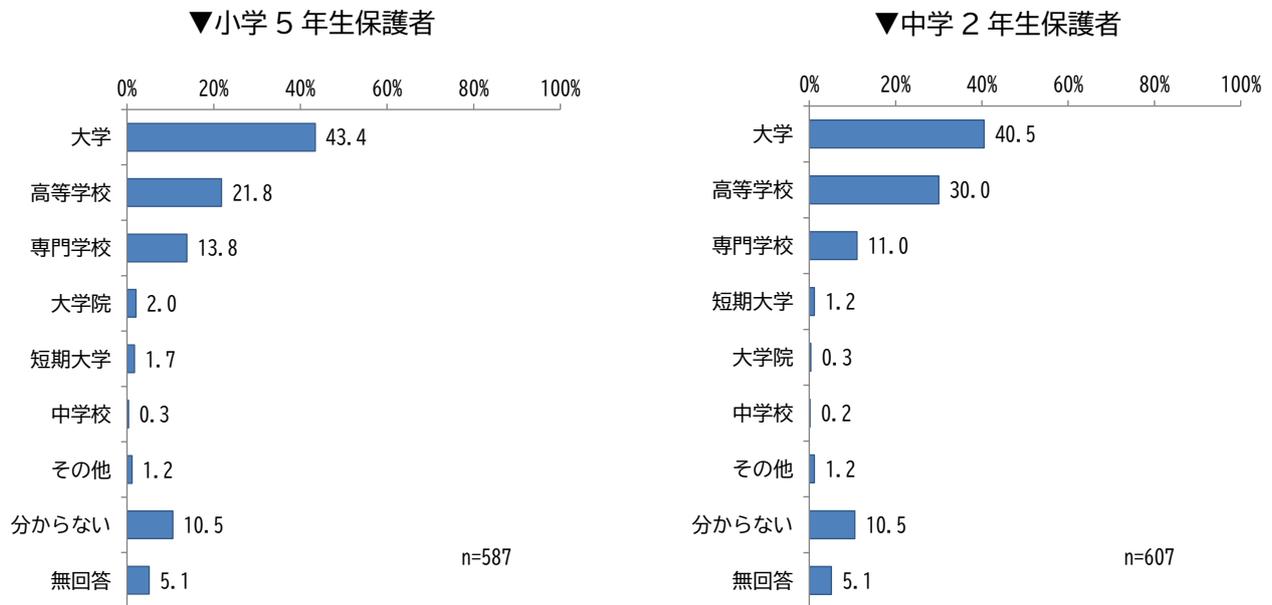


- お子さんと一緒に遊びや料理、会話等をする時間を尋ねたところ、平日は小学生世帯では「3時間以上」の割合最も高く(30.5%)、中学生世帯では「1~2時間未満」の割合が最も高く(23.9%)なっています。1時間未満とする回答を合計すると、小学5年生保護者:21.1%、中学2年生保護者:34.5%でした。一方で、休日は「3時間以上」の割合が小中学生世帯ともに最も高くなっています(小学5年生保護者:69.3%、中学2年生保護者:47.4%)。



3) 子どもの進学

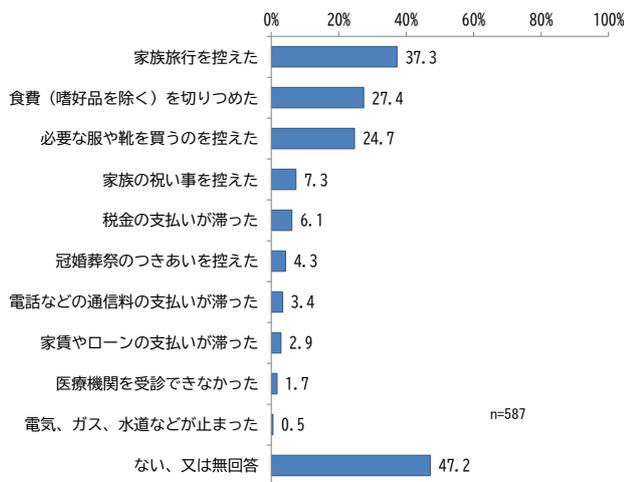
- 子どもを将来どの段階まで進学させたいと思うか尋ねたところ、小中学生世帯ともに「大学」の割合が4割以上と最も高くなっています(小学5年生保護者:43.4%、中学2年生保護者:40.5%)。その希望通り進学できそうかと尋ねたところ、「そう思う」と回答した割合は、小学5年生保護者:42.8%、中学2年生保護者:51.0%となっています。



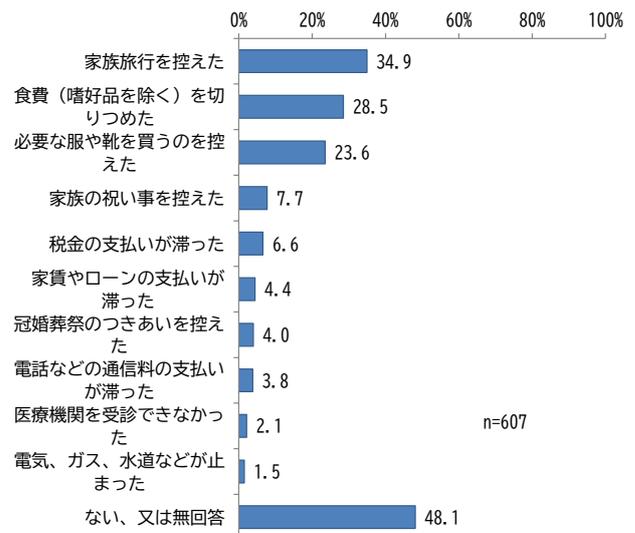
4) 支出を控えた経験

- 過去1年の間に経済的理由で支出を控えた経験を尋ねたところ、小中学生保護者ともに「ない、又は無回答」が最も多く、小学5年生保護者:47.2%、中学2年生保護者:48.1%となっています。一方で、控えた支出の内訳をみると、「家族旅行を控えた」(小学5年生保護者:37.3%、中学2年生保護者:34.9%)「食費を切りつめた」(小学5年生保護者:27.4%、中学2年生保護者:28.5%)「必要な服や靴を買うのを控えた」(小学5年生保護者:24.7%、中学2年生保護者:23.6%)などが上位に上がりました。

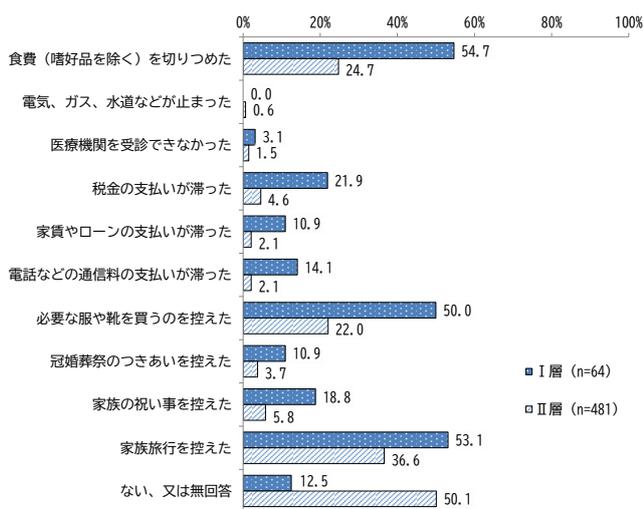
▼小学5年生保護者



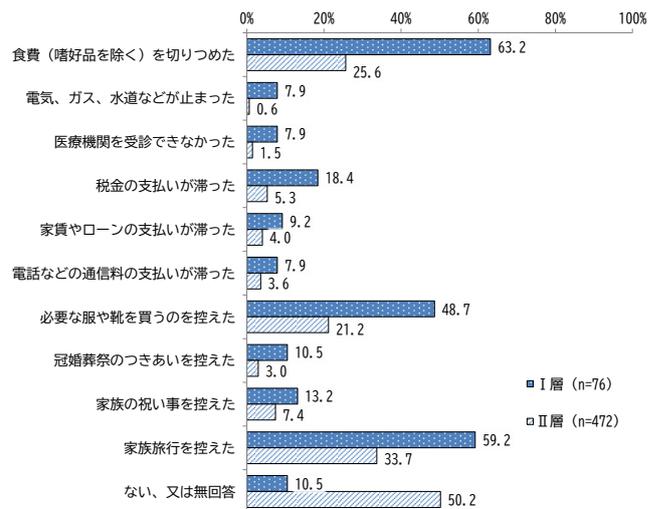
▼中学2年生保護者



▼小学5年生保護者 経済状況別



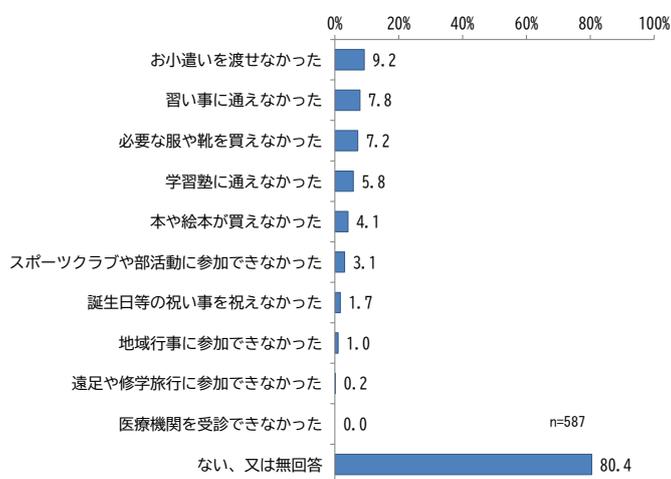
▼中学2年生保護者 経済状況別



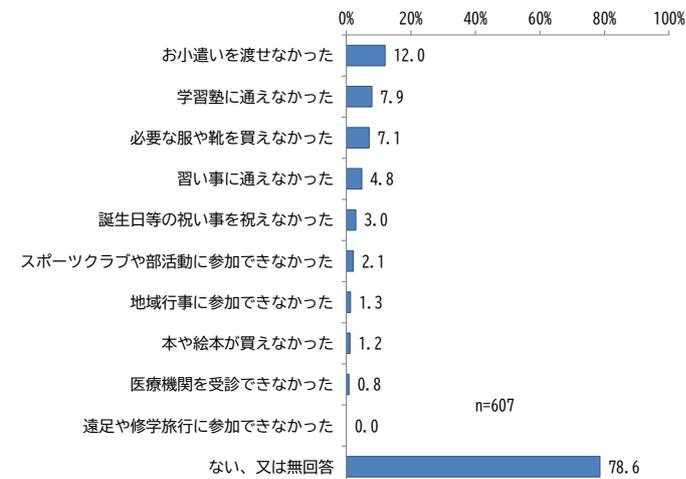
5) 子どものための支出を控えた経験

- 過去1年の間に経済的理由で子どものための支出を控えた経験を尋ねたところ、小中学生保護者ともに「ない、又は無回答」が最も多く、小学5年生保護者：80.4%、中学2年生保護者：78.6%となっています。一方で、控えた支出の内訳をみると、「お小遣いを渡せなかった」(小学5年生保護者：9.2%、中学2年生保護者：12.0%)「習い事に通えなかった」(小学5年生保護者：7.8%、中学2年生保護者：4.8%)「必要な服や靴を買えなかった」(小学5年生保護者：7.8%、中学2年生保護者：7.1%)「学習塾に通えなかった」(小学5年生保護者：5.8%、中学2年生保護者：7.9%)などが上位に上がりました。

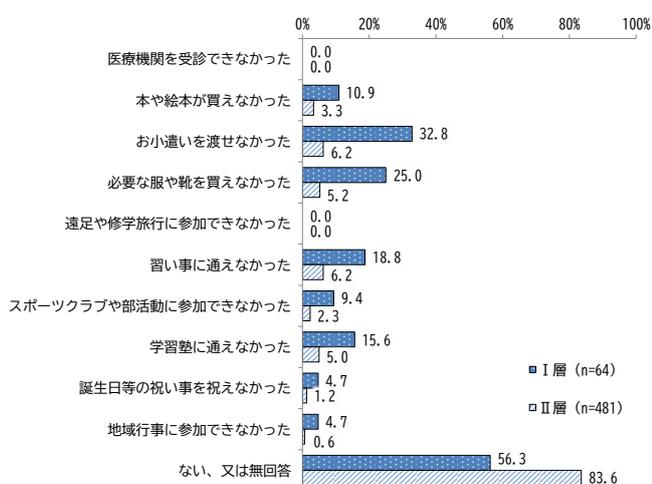
▼小学5年生保護者



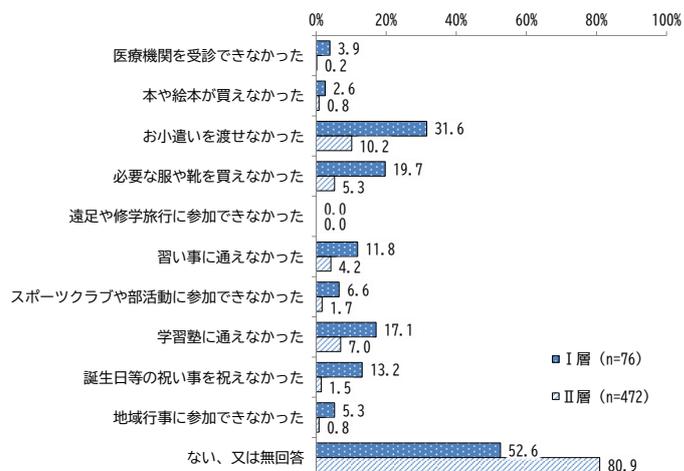
▼中学2年生保護者



▼小学5年生保護者 経済状況別

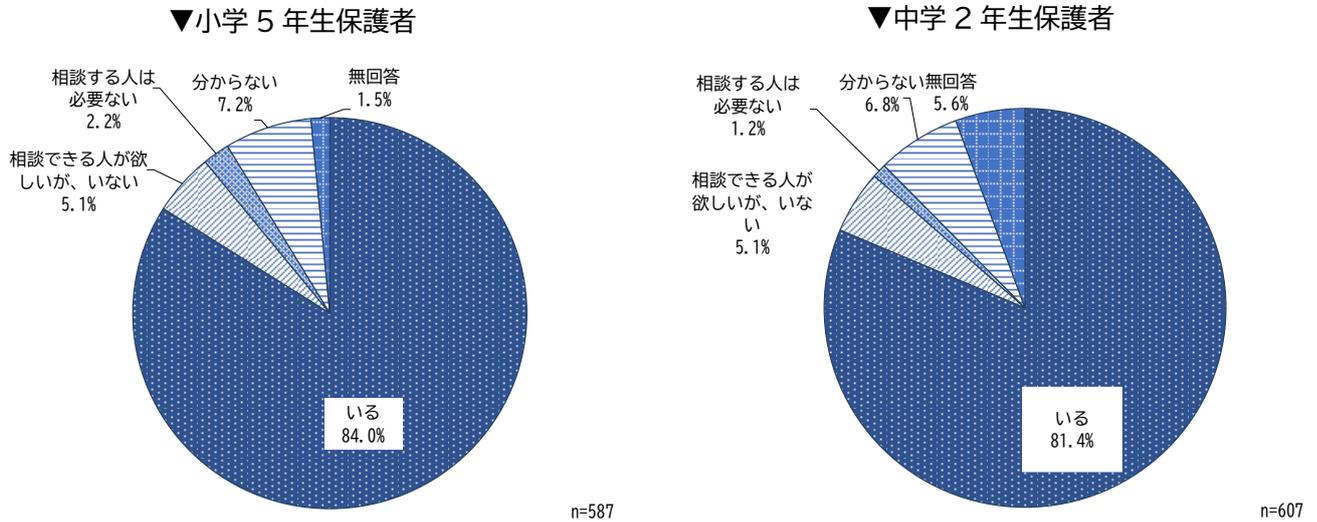


▼中学2年生保護者 経済状況別



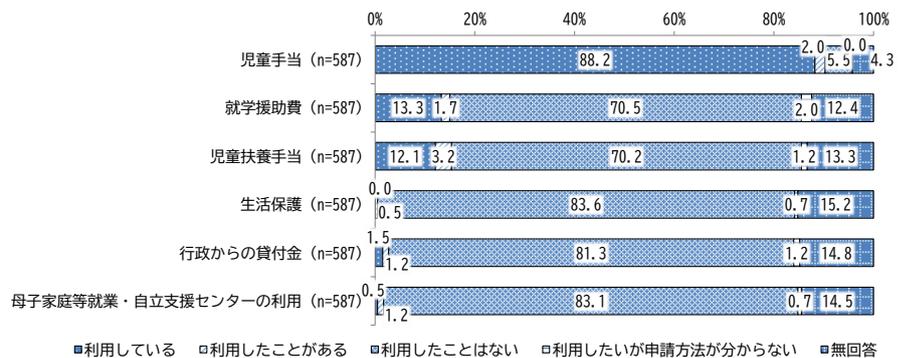
6) 悩みの相談先や手当等の利用状況

- 悩みや子育てを相談できる人の有無を尋ねたところ、「いる」人の割合は小中学生保護者ともに 8 割以上となっています(小学 5 年生保護者:84.0%、中学 2 年生保護者:81.4%)。一方で「相談できる人が欲しいが、いない」割合は小中学生保護者ともに 5.1%となっています。

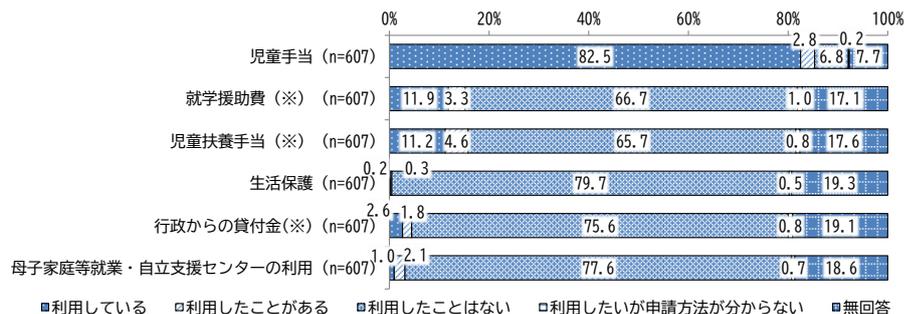


- 手当等の利用状況や利用経験を尋ねたところ、「就学援助費」(小学 5 年生保護者:13.3%、中学 2 年生保護者:11.9%)や「児童扶養手当」(小学 5 年生保護者:12.1%、中学 2 年生保護者:11.2%)に関して、それぞれ 1 割程度の利用者がいます。「利用したいが申請方法が分からない」とする回答者に関しては、それぞれ小学 5 年生保護者の方が高い割合となっています「就学援助費」(小学 5 年生保護者:2.0%、中学 2 年生保護者:1.0%)「児童扶養手当」(小学 5 年生保護者:1.2%、中学 2 年生保護者:0.8%)。

▶小学 5 年生保護者



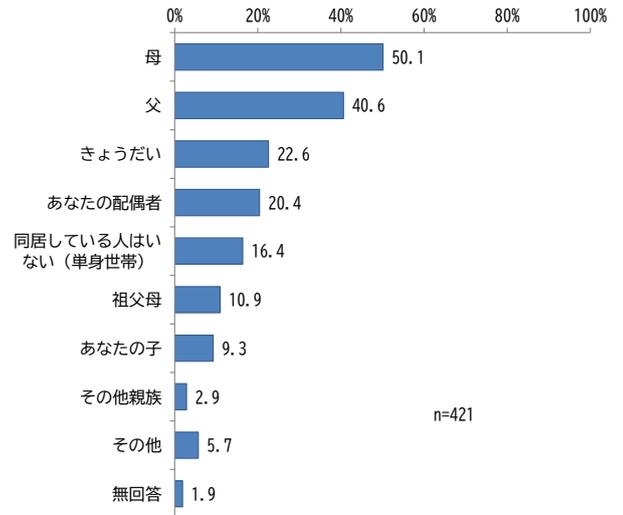
▶中学 2 年生保護者



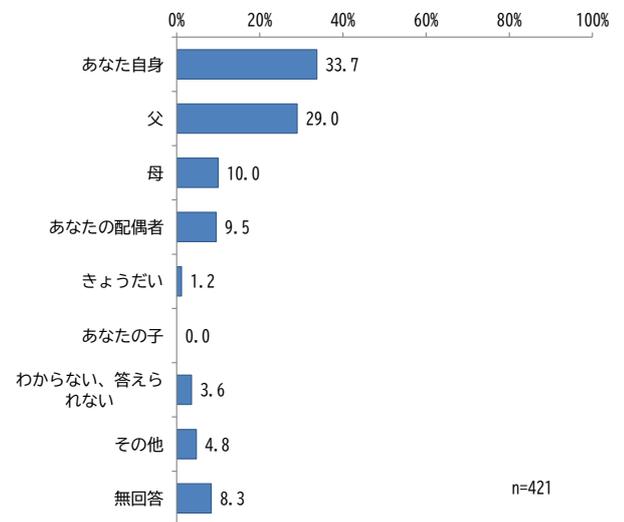
(6) こども・若者意識調査【18～39歳】

1) 家族構成等

- 同居している方を尋ねたところ、「母」が 50.1%で最も高く、次いで「父」が 40.6%、「きょうだい」が 22.6%となっています。また、「同居している人はいない(単身世帯)」の割合は、16.4%です。

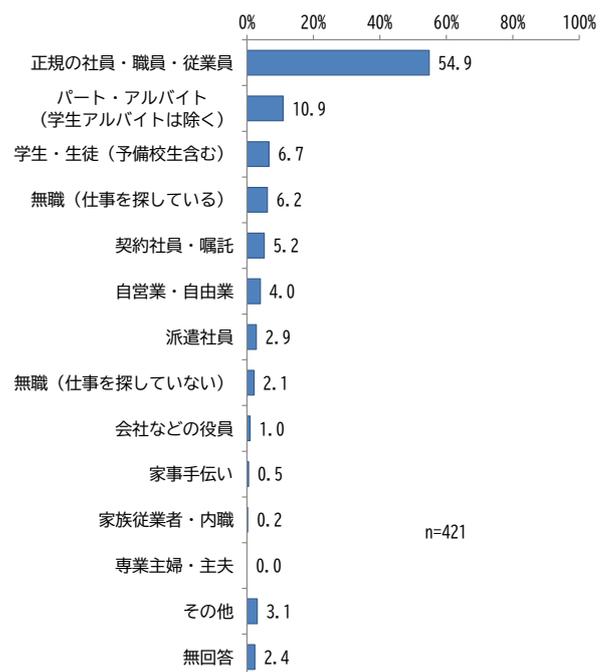


- 回答者の家の生計を立てている人について、「あなた自身」の割合が 33.7%と最も高く、次いで「父」の割合が 29.0%、「母」の割合が 10.0%となっているなど、4割近い人が両親の立てる生計で生活しています。



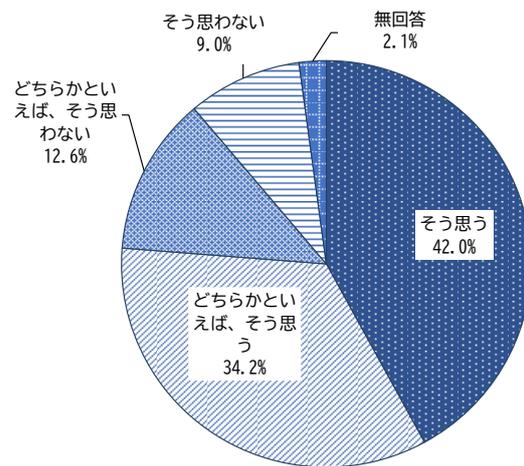
2) 就業経験

- 就業経験を尋ねたところ、「現在就業している」が 81.5%で最も高く、次いで「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」が 9.3%、「これまでに就業経験はない」が 4.8%となっています。また、現在の職業を尋ねたところ、「正規の社員・職員・従業員」が 54.9%で最も高く、次いで「パート・アルバイト(学生アルバイトは除く)」が 10.9%、「学生・生徒(予備校生含む)」が 6.7%となっています。



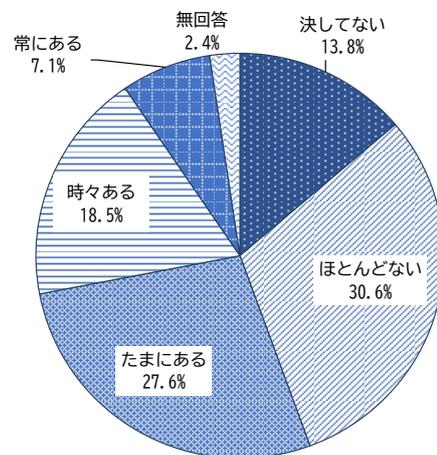
3) 自分自身の気持ち

- 自分らしさがあるかどうかを尋ねたところ、「そう思う」が 42.0%、「どちらかといえばそう思う」が 34.2%であるのに対して、「そう思わない」が 9.0%、「どちらかといえばそう思わない」が 12.6%となっています。



n=421

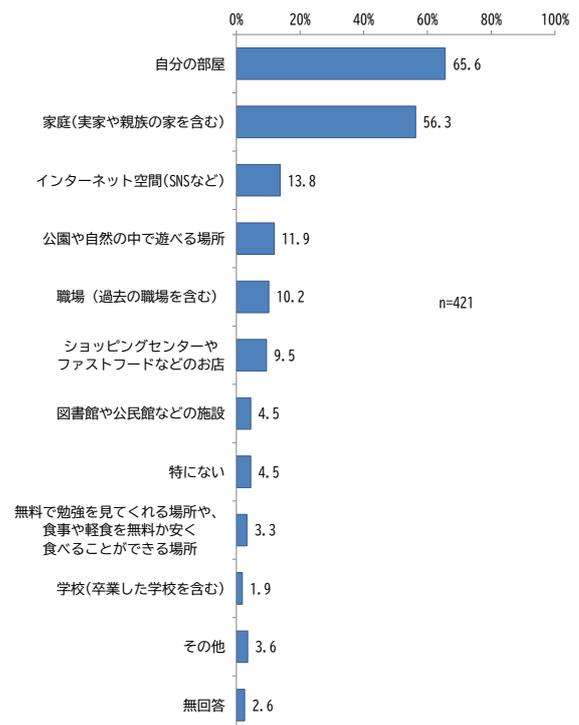
- 孤独だと感じる頻度を尋ねたところ、「ほとんどない」が 30.6%、「決してない」が 13.8%であるのに対して、「常にある」が 7.1%、「時々ある」が 18.5%、「たまにある」が 27.6%となっています。



n=421

4) 居場所

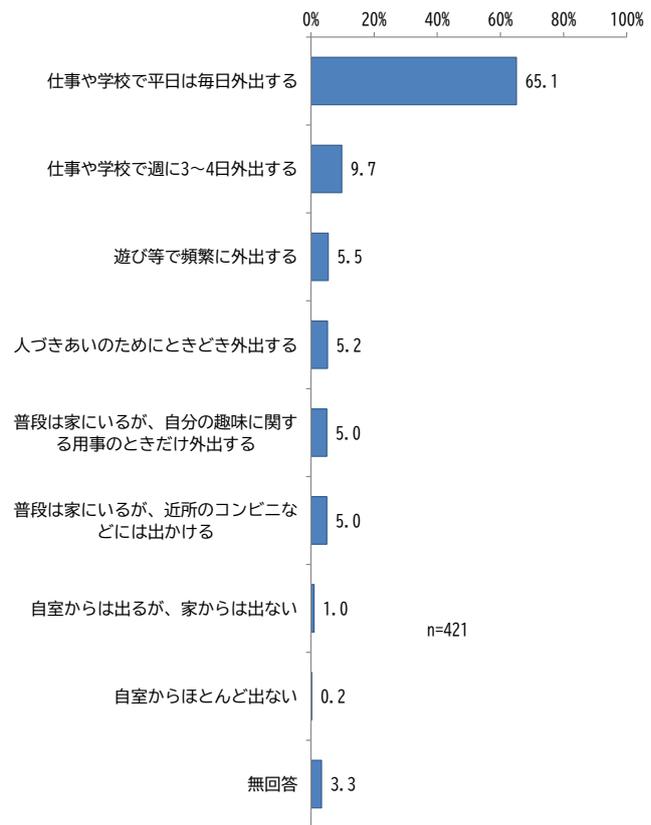
- 居場所(ほっとできる場所、居心地の良い場所)がどのような場所か尋ねたところ、「自分の部屋」が 65.6%と最も高く、次いで「家庭(実家や親族の家を含む)」が 56.3%、「インターネット空間」が 13.8%となっています。「特にない」は 4.5%でした。「特にない」と回答した人に対して、どのような場所であれば行ってみたいか尋ねたところ、「特にない」が 31.6%であったのに対して、「いつでも行きたい時に行ける」「一人で過ごせたり、何もせずのんびりしたりできる」「好きなことをして自由に過ごせる」「悩み事の相談にのってもらえる」が 26.3%となっています。



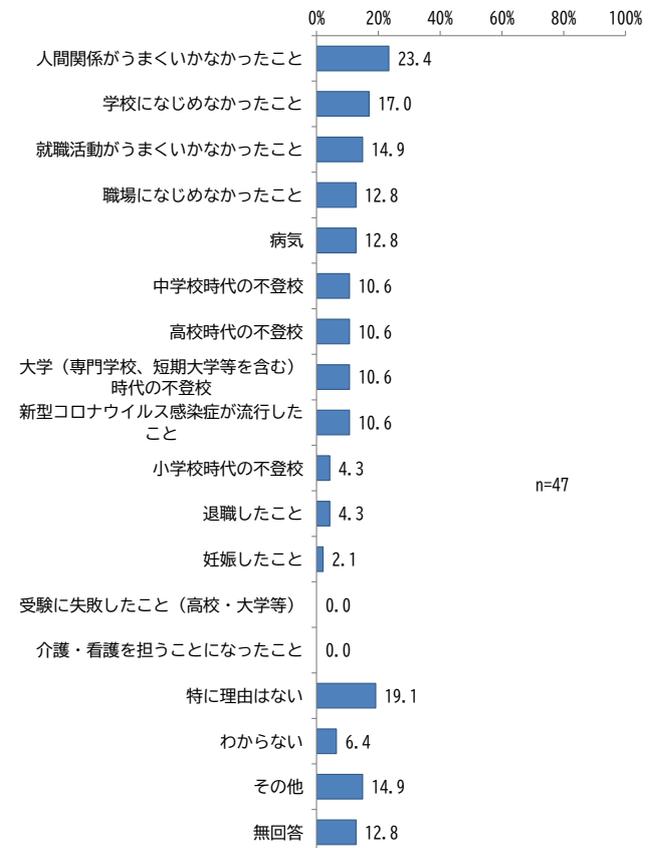
n=421

5) 外出状況

- 普段の外出状況については、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が 65.1%と大半を占めています。一方で「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」(5.0%)。「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」(5.0%)、「自室からは出るが、家からは出ない」(1.0%)、「自室からほとんど出ない」(0.2%)といった回答もみられました。



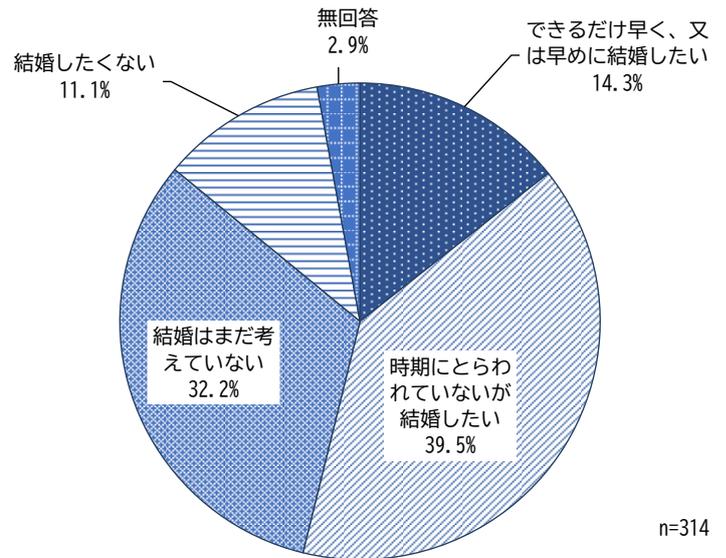
- 「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」、「自室からは出るが、家からは出ない」、「自室からほとんど出ない」と回答した人に外出状況が現在の状態になってからどのくらい経つか尋ねたところ、「10~15 年未満」の割合が 19.1%と最も高くなっています。「6 か月未満」の割合は 21.3%である一方、「6 か月以上」の選択肢を回答した割合は 74.3%となっています。



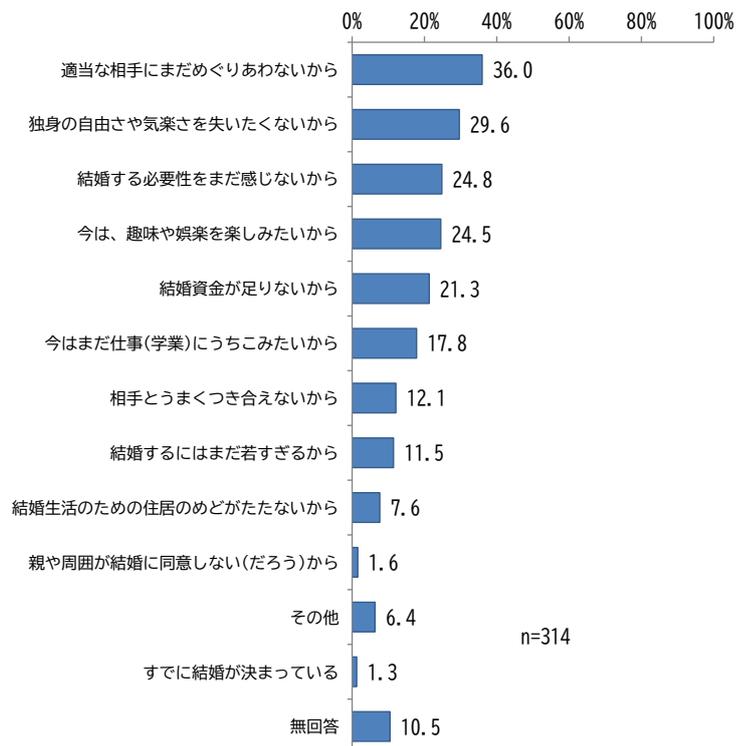
- 上記のような外出状況になった理由として、「人間関係がうまくいかなかった」の割合が 23.4%と最も高く、次いで「学校になじめなかったこと」の割合が 17.0%、「就職活動がうまくいかなかったこと」の割合が 14.9%となっています。

6) 結婚

- 「結婚していない」または「結婚したことがあるが、今はそうではない」人に対して、結婚に対する考えを尋ねたところ、結婚への意欲がある層(「できるだけ早く、又は、早めに結婚したい」+「時期にとらわれていないが結婚したい」)が 53.8%、結婚へ消極的な層(「結婚はまだ考えていない」+「結婚したくない」)が 43.3%と、結婚への意欲がある層の割合が大きくなっています。



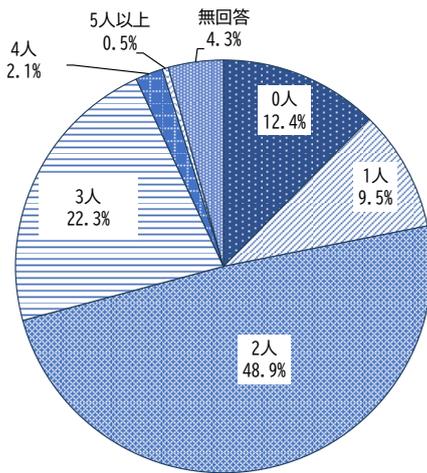
- 独身でいる理由を尋ねたところ、「適当な相手にまだめぐり合わないから」の割合が 36.0%と最も高く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」の割合が 29.6%、「結婚する必要性をまだ感じないから」の割合が 24.8%となっています。また、「結婚資金が足りないから」といった回答も 21.3%となっています。



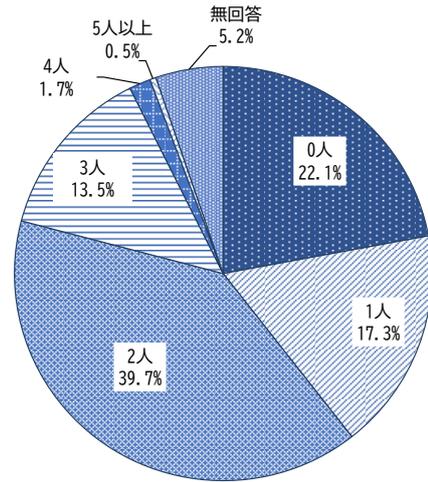
7) 出産

- 理想的な子どもの人数については、「2人」(48.9%)、「3人」(22.3%)、「0人」(12.4%)の順となっています。一方で、実際に持つつもりの子どもの人数は、「2人」(39.7%)、「0人」(22.1%)、「1人」(17.3%)となっています。実際と希望を比べると、実際持つつもりの子どもの人数は、「0人」の割合が9.7ポイント、「1人」の割合が7.8ポイント増加しているのに対して、「2人」の割合が9.2ポイント、「3人」の割合が8.8ポイント減少しています。

▼理想とする子どもの数



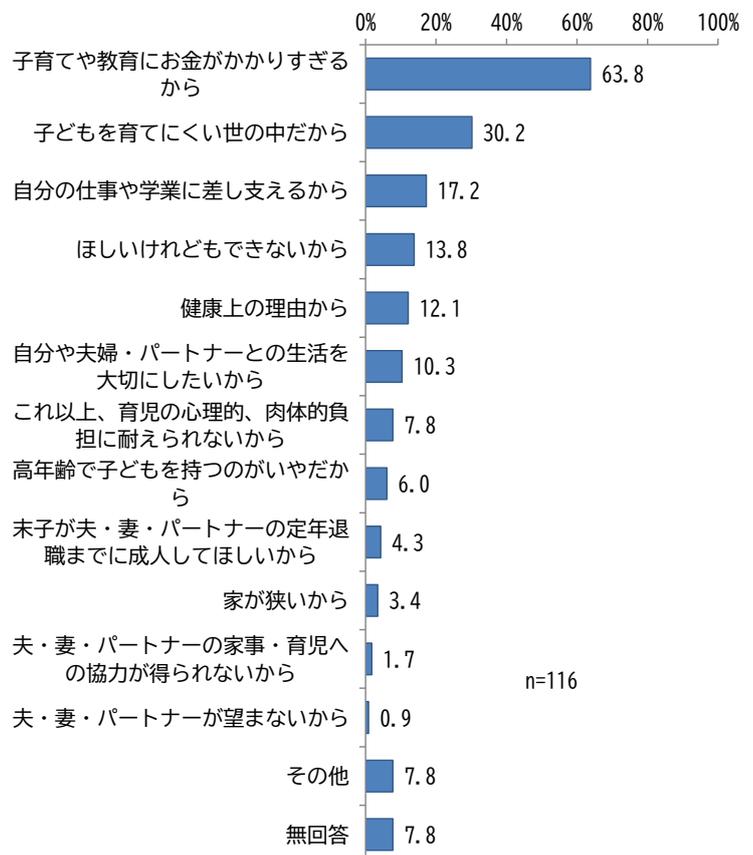
▼今後持つつもりの子どもの数



n=421

n=421

- 理想としている子どもの数より、実際に持つつもりの子どもの数が少ない理由として、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が63.8%と最も高く、次いで「子どもを育てにくい世の中だから」の割合が30.2%、「自分の仕事や学業に差し支えるから」の割合が17.2%となっています。



n=116